



Service Registry 3.1 ユーザーズ ガイド (2006Q4)



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-7126
2007年2月

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目次

はじめに	7
1 Web コンソールについて	15
Web コンソールの起動	15
デフォルト言語の変更	16
ラベルおよびメッセージのデフォルト言語の変更	16
▼ラベルおよびメッセージの言語を変更する	17
レジストリコンテンツのデフォルト言語の変更	17
レジストリコンテンツのバージョン管理の有効化	18
ユーザーアカウントの作成	18
▼ユーザー登録ウィザードを起動する	19
▼レジストリによって生成された証明書を取得する	19
▼サードパーティー証明書を使用する	20
▼Mozilla または Firefox ブラウザへの証明書の読み込み	21
▼Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み	22
▼レジストリにログインする	23
レジストリに対する認証	23
2 レジストリの検索	25
「検索」タブの使用	25
クエリーの選択	26
オブジェクト型による検索	27
▼オブジェクト型で検索する	29
名前および説明による検索	29
▼名前および説明で検索する	29
状態による検索	30
▼状態で検索する	30

分類による検索	30
▼ 分類で検索する	32
WSDL クエリーの実行	33
▼ WSDL 検出クエリーを実行する	33
▼ WSDL バインディングクエリーを実行する	33
▼ WSDL ポート検出クエリーを実行する	34
▼ WSDL ポートタイプ検出クエリーを実行する	35
▼ WSDL サービス検出クエリーを実行する	35
▼ サービスの WSDL 文書を検索する	37
検索結果の表示	37
▼ ブックマーク機能を使用する	38
オブジェクトの詳細の表示	39
Association の詳細の表示	41
Classification Scheme の詳細の表示	41
付帯オブジェクトの詳細の表示	42
外部リンクの詳細の表示	42
「探索」タブの使用	42
▼ 「探索」タブを使用する	42
▼ Classification Scheme を探索する	43
▼ userData フォルダを探索する	43
3 レジストリオブジェクトの発行と管理	45
オブジェクトの発行	45
▼ 新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する	47
▼ AdhocQuery オブジェクトを作成および発行する	48
▼ ClassificationNode オブジェクトを作成および発行する	48
▼ ClassificationScheme オブジェクトを作成および発行する	49
▼ ExternalLink オブジェクトを作成および発行する	49
▼ ExtrinsicObject オブジェクトを作成および発行する	50
▼ Federation オブジェクトを作成および発行する	52
▼ Organization オブジェクトを作成および発行する	53
▼ Person または User オブジェクトを作成および発行する	53
▼ Registry オブジェクトを作成および発行する	54
▼ RegistryPackage オブジェクトを作成および発行する	55
▼ Service オブジェクトを作成および発行する	55

オブジェクトへの分類の追加	56
▼ 分類を追加する	56
オブジェクトへの外部識別子の追加	56
▼ 外部識別子を追加する	57
オブジェクトへの外部リンクの追加	57
▼ 外部リンクを追加する	57
スロットによるオブジェクトへのカスタム情報の追加	58
▼ スロットを追加する	58
住所の Organization または User への追加	59
▼ 住所を追加する	59
Organization または User への電話番号の追加	60
▼ 電話番号を追加する	60
電子メールアドレスの Organization または User への追加	60
▼ 電子メールアドレスを追加する	61
Organization への User の追加	61
▼ User を追加する	61
Organization への子組織の追加	62
▼ 子組織を追加する	62
Service へのサービスバインディングの追加	62
▼ サービスバインディングを追加する	62
サービスバインディングへの仕様リンクの追加	63
▼ 仕様リンクを追加する	63
子 Concept の Classification Scheme または Concept への追加	64
▼ 子 Concept を追加する	64
レジストリパッケージへのオブジェクトの追加	65
▼ レジストリパッケージにオブジェクトを追加する	65
オブジェクトの状態の変更	66
オブジェクトの削除	67
オブジェクト間の関係の作成	67
▼ Reference を作成する	68
▼ Association を作成する	69
4 障害追跡	71
Service Registry にアクセスできない	71
優先ロケールが使用されない	72

検索パネルのラベルが現在のロケールで表示されない	72
ExternalLink や ServiceBinding を作成できない	72
Web コンソールのエラーメッセージが消えない	72
新しいレジストリオブジェクトを保存できない	73
Web コンソールが応答しない	73
クライアント証明書選択間違いによるログインエラー	73
WSDL ファイル発行時のコンテンツ不足エラー	74
索引	75

はじめに

『Service Registry 3.1 ユーザーズガイド (2006Q4)』では、Service Registry (レジストリ) で提供される Web コンソールユーティリティーの使用方法について説明します。Web コンソールを使用して、レジストリのデータを検索し、レジストリにデータを発行することができます。また、障害追跡に関する情報も示します。

Service Registry は ebXML レジストリであり、標準および拡張メタデータによって記述されるすべての種類の電子コンテンツを管理する、連携レジストリおよびリポジトリです。サービス指向アーキテクチャー (SOA) およびほかのコンテンツとメタデータに対する、セキュリティー保護された連携情報管理を提供します。ebXML Registry 3.0 および UDDI 3.0 レジストリプロトコルをサポートしています。

対象読者

『ユーザーズガイド』は、レジストリを検索し、レジストリにデータを発行する管理者およびエンドユーザーを対象としています。このマニュアルは、ebXML レジストリおよびリポジトリ仕様の基本的概念に習熟している方を対象に記述されています。

お読みになる前に

次の仕様の基本的概念に習熟している必要があります。

- [ebXML Registry Information Model Version 3.0](#)
- [ebXML Registry Services and Protocols Version 3.0](#)

Service Registry は Sun Java™ Enterprise System (Java ES) のコンポーネントであり、ネットワーク内や Internet 環境に分散するエンタープライズアプリケーションをサポートするソフトウェアインフラストラクチャーです。

<http://docs.sun.com/coll/1286.2> にある Java ES マニュアルの内容を理解しておく必要があります。

内容の紹介

このマニュアルの内容は次のとおりです。

第1章では、Web コンソールの主要要素、およびレジストリを検索してデータをレジストリに発行する前に実行する予備ステップについて説明します。

第2章では、レジストリの検索方法について説明します。

第3章では、オブジェクトを作成してレジストリに発行する方法について説明します。

第4章では、Web コンソールの使用時に発生する可能性のある問題の解決方法について説明します。

Service Registry のマニュアルセット

Service Registry のマニュアルセットは、<http://docs.sun.com/coll/1314.2> で入手できます。Service Registry の詳細については、次の表に示すマニュアルを参照してください。

表 P-1 Service Registry のマニュアル

マニュアルタイトル	内容
『Service Registry 3.1 リリースノート (UNIX 版)』	既知の問題など、Service Registry に関する最新の情報が記載されています。
『Service Registry 3.1 管理ガイド』	Service Registry のインストール後の設定方法、およびレジストリとともに提供される管理ツールの使用方法について説明します。また、その他の管理作業の実行方法についても説明します。
『Service Registry 3.1 ユーザーズガイド (2006Q4)』	Service Registry の Web コンソールを使用して Service Registry を検索し、Service Registry にデータを発行する方法について説明します。
『Service Registry 3.1 開発ガイド』	JAXR (Java API for XML Registries) を使用して Service Registry を検索し、データを発行する方法について説明します。

関連マニュアル

Service Registry をインストールすると、Sun Java System Application Server に配備されます。Application Server の管理については、『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.2 管理ガイド』を参照してください。

Java ES のマニュアルセットでは、配備計画とシステムインストールについて説明します。システムマニュアルの URL は <http://docs.sun.com/coll/1286.2> です。Java ES をはじめて使用する場合は、次の表に示すマニュアルを表の順番どおりに参照してください。

表 P-2 Java Enterprise System のマニュアル

マニュアルタイトル	内容
『Sun Java Enterprise System 5 リリースノート (UNIX 版)』	既知の問題など、Java ES に関する最新の情報が記載されています。これ以外に、コンポーネントごとにリリースノート (Release Notes Collection (http://docs.sun.com/coll/1315.2) に表示) があります。
『Sun Java Enterprise System 5 リリースノート (Windows 版)』	
『Sun Java Enterprise System 5 技術の概要』	Java ES の技術的および概念的な基礎について説明します。コンポーネント、アーキテクチャー、プロセス、および機能についても説明します。
『Sun Java Enterprise System Deployment Planning Guide』	Java ES に基づく企業向け配備ソリューションの計画および設計について説明します。配備の計画および設計に関する基本的概念と原則を示し、ソリューションのライフサイクルについて説明し、Java ES に基づくソリューションを計画する際に使用する高度な例と戦略を提供します。
『Sun Java Enterprise System 5 インストール計画ガイド』	Java ES の配備のハードウェア面、オペレーティングシステム面、およびネットワーク面に関する実装仕様の策定を支援します。インストールや設定の計画の中で解決する必要があるコンポーネントの依存関係などの問題について説明します。
『Sun Java Enterprise System 5 インストールガイド (UNIX 版)』	Java ES のインストール手順について説明します。また、インストール後のコンポーネントの設定方法と、コンポーネントの正常動作の確認方法を示します。
『Sun Java Enterprise System 5 インストールガイド (Windows 版)』	
『Sun Java Enterprise System 5 インストールリファレンス (UNIX 版)』	設定パラメータに関する追加情報、設定の計画で使用するワークシート、および Solaris オペレーティングシステムまたは Linux オペレーティング環境でのデフォルトのディレクトリやポート番号などの参照資料の一覧を示します。

表 P-2 Java Enterprise System のマニュアル (続き)

マニュアルタイトル	内容
『Sun Java Enterprise System 5 アップグレードガイド (UNIX 版)』	前にインストールしたバージョンから Java ES 5 へのアップグレードの手順について説明します。
『Sun Java Enterprise System 5 Upgrade Guide for Microsoft Windows』	
『Sun Java Enterprise System 5 監視ガイド (UNIX 版)』	各製品コンポーネントに監視フレームワークを設定する方法、および監視コンソールを使用してリアルタイムデータの表示および監視規則の作成を行う手順について説明します。
『Sun Java Enterprise System 用語集』	Java ES のマニュアルで使用される用語について説明します。

Java ES およびそのコンポーネントに関するすべてのマニュアルの URL は <http://docs.sun.com/prod/entsys.5> です。

デフォルトのパスとファイル名

次の表は、このマニュアルで使用されているデフォルトのパス名とファイル名について説明したものです。

表 P-3 デフォルトのパスとファイル名

プレースホルダ	説明	デフォルト値
<i>ServiceRegistry-base</i>	Service Registry のベースインストールディレクトリを表します。	Solaris OS: /opt/SUNWsrvc-registry Linux および HP-UX システム: /opt/sun/srvc-registry
<i>RegistryDomain-base</i>	Service Registry の Application Server ドメインが配置され、Service Registry データベースが配置されているディレクトリを表します。	Solaris OS: /var/opt/SUNWsrvc-registry Linux および HP-UX システム: /var/opt/sun/srvc-registry

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-4 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>aabbcc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

コマンド例のシェルプロンプト

次の表は、デフォルトのシステムプロンプトおよびスーパーユーザープロンプトを示しています。

表 P-5 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX および Linux システムの C シェル	machine_name%
UNIX および Linux システムの C シェルのスーパーユーザー	machine_name#
UNIX および Linux システムの Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
UNIX および Linux システムの Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー	#
Microsoft Windows のコマンド行	C:\

記号の表記規則

この表は、このマニュアルで使用される記号について説明したものです。

表 P-6 記号の表記規則

記号	説明	例	意味
[]	省略可能な引数やコマンドオプションが含まれます。	ls [-l]	-l オプションは必須ではありません。
{ }	必須のコマンドオプションの選択肢のセットが含まれます。	-d {y n}	-d オプションには、y 引数または n 引数のいずれかを使用する必要があります。
\${ }	変数参照を示します。	\${com.sun.javaRoot}	com.sun.javaRoot 変数の値を参照します。
-	同時に実行する複数のキーストロークを結び付けます。	Control-A	コントロールキーを押しながら A キーを押します。
+	連続する複数のキーストロークを結び付けます。	Ctrl+A+N	Ctrl キーを押し、放してから、以後のキーを続けて押します。
→	グラフィカルユーザーインタフェースのメニュー項目の選択を示します。	「ファイル」→「新規」 →「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから、「テンプレート」を選択します。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

Web コンソールについて

Web コンソールは、レジストリを検索し、レジストリとリポジトリにコンテンツを発行するための、Web ベースのユーザーインターフェースです。ここでは、これらの操作を実行する前に必要な準備手順について説明します。

- 15 ページの「Web コンソールの起動」
- 16 ページの「デフォルト言語の変更」
- 18 ページの「レジストリコンテンツのバージョン管理の有効化」
- 18 ページの「ユーザーアカウントの作成」

Web コンソールの起動

Web コンソールを起動するには、ブラウザに次の URL を入力します。

```
http://hostname:port/soar/
```

次に例を示します。

```
http://localhost:6480/soar/
```

レジストリがシステムにインストールされている場合、*hostname* は `localhost` です。レジストリがシステムにインストールされていない場合は、レジストリがインストールされているシステムの名前を使用します。*port* の値は、ポートの競合がないかぎり `6480` です。

Web コンソールの主なセクションは次のとおりです。

- トップバナーでは、以下の操作を行うことができます。
 - Web コンソールの開始画面を開く
 - レジストリドキュメントまたはオンラインヘルプへのアクセス
 - ログインおよびログアウト
 - ロケールのリセット (16 ページの「ラベルおよびメッセージのデフォルト言語の変更」を参照)

- 現在のセッションの終了
- レジストリコンテンツのバージョン管理の設定 (18 ページの「レジストリコンテンツのバージョン管理の有効化」を参照)
- コンテンツの言語の設定 (17 ページの「レジストリコンテンツのデフォルト言語の変更」を参照)
- 画面左側のメニュー領域には3つのタブがあります。
 - 「タスク」
 - 「検索」
 - 「探索」
- メイン領域。開始画面またはタスク、検索、探索操作の結果が表示されます。

Web コンソールに初めてアクセスすると開始画面が開かれ、「タスク」タブが表示されます。開始画面および「タスク」タブに戻るには、バナー領域のホームリンクをクリックします。

「ドキュメント」をクリックすると、新しいブラウザウィンドウの <http://docs.sun.com/coll/1314.2> にある Service Registry のマニュアルが表示されます。

「ユーザーガイド」をクリックすると、新しいブラウザウィンドウに Web コンソールのオンラインヘルプが表示されます。

Web コンソールにログインするには「ログイン」ボタンを使用しますが、ユーザーアカウントを作成するまでログインできません。ログインすると「ログイン」ボタンはグレー表示になり、「セッションを終了」ボタンが「ログアウト」ボタンに変化します。

ログインしていない場合は、「セッションを終了」ボタンをクリックして Web コンソールを終了します。

「セッションを終了」または「ログアウト」をクリックすると、「セッションは終了しました」ページに移動します。レジストリに戻って新規セッションを開始できます。

デフォルト言語の変更

次の2種類の情報の表示に使用されるデフォルト言語を変更できます。

- Web コンソールのラベルおよびメッセージ
- レジストリコンテンツ

ラベルおよびメッセージのデフォルト言語の変更

Web コンソールのラベルおよびメッセージは、表 1-1 に示す言語で表示できます。

表 1-1 Web コンソールによってサポートされる言語

言語	コード
簡体字中国語 (中国)	zh_CN
繁体字中国語 (台湾)	zh_TW
英語 (アメリカ合衆国)	en
フランス語	fr
ドイツ語	de
日本語	ja
韓国語	ko
スペイン語	es

▼ ラベルおよびメッセージの言語を変更する

- 1 ブラウザの操作手順に従って、該当する言語をブラウザの言語環境に追加します。ほとんどのブラウザでは、「インターネットオプション」、「オプション」、または「設定」ダイアログボックスの「全般」領域に言語の設定項目があります。
- 2 該当する言語を言語リストの先頭に置くことによって、その言語を優先言語にします。
- 3 「ロケールをリセット」ボタンをクリックします。ラベルが該当する言語で表示されます。

レジストリコンテンツのデフォルト言語の変更

レジストリにコンテンツを発行する際は、トップバナー領域の「コンテンツの言語」ドロップダウンリストに表示されるいずれかの言語を使用できます。デフォルトは、使用しているブラウザの言語設定です。

言語をデフォルトから変更するには、「コンテンツの言語」ドロップダウンリストから言語を選択します。

レジストリコンテンツのバージョン管理の有効化

レジストリオブジェクトのバージョン管理は、デフォルトでは無効になっています。すべてのオブジェクトのバージョン番号は 1.1 に設定されます。オブジェクトを変更したときに、そのオブジェクトに新しいバージョン番号を設定するには、「バージョン管理」チェックボックスを選択します。チェックボックスの選択は、管理者が『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリオブジェクトのバージョン管理の有効化」に記述されているタスクを実行するまで有効化されません。

ユーザーアカウントの作成

レジストリの公開コンテンツをブラウズするときは、レジストリにログインする必要はありません。ただし、非公開オブジェクトへの読み取りアクセスや公開オブジェクトへの書き込みアクセスを行うには、レジストリにユーザーアカウントを作成する必要があります。ユーザーアカウントを作成すると、オブジェクトの発行、変更、削除などのセキュリティー保護された操作を実行できます。

ユーザーアカウントを作成するには、次の一般的な手順を実行する必要があります。

1. 新規ユーザーの詳細フォームに必要な情報を入力します。
2. 資格のセットをユーザーアカウントに関連付けます。資格は次のいずれかの方法で取得できます。
 - レジストリによって資格を自動的に生成できます。この方法では、資格をより簡単に取得できます。
 - サードパーティー証明書発行局によって発行された証明書がある場合は、その証明書を使用して資格を取得できます。証明書を使用するには、管理者に、サードパーティールート証明書をレジストリの Application Server ドメインにインストールしてもらう必要があります。詳細については『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリ用ドメイン内の信頼できる証明書にルート証明書を追加する」を参照してください。

ユーザーアカウントを作成するには、次の作業を実行します。

- 19 ページの「ユーザー登録ウィザードを起動する」
- 19 ページの「レジストリによって生成された証明書を取得する」 または 20 ページの「サードパーティー証明書を使用する」
- 21 ページの「Mozilla または Firefox ブラウザへの証明書の読み込み」 または 22 ページの「Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み」
- 23 ページの「レジストリにログインする」
- 23 ページの「レジストリに対する認証」

▼ ユーザー登録ウィザードを起動する

- 1 左側のメニュー領域で「タスク」タブをクリックして、「ユーザーアカウントを作成」をクリックします。
- 2 「登録ウィザードを開始」ボタンをクリックします。
- 3 「ステップ1:要件」の指示を読んで、「次へ」をクリックします。
- 4 「新規ユーザーの詳細」フォームに必要な情報を入力します。
以下のフィールドにデータを入力します。
 - 「名」
 - 「姓」
 - 「市」
 - 「州または都道府県」
 - 「国」(2文字に制限されています。国コードを使用。)
- 5 「次へ」をクリックします。
「ユーザー認証の詳細」ページが表示されます。
- 6 「ユーザー認証の詳細」ページで、次のいずれかのラジオボタンを選択します。
 - レジストリで証明書を作成する場合は、「鍵ペアを生成してPKCS12キーストアをダウンロード」(デフォルト)を選択します。この作業の詳細については、[19ページの「レジストリによって生成された証明書を取得する」](#)を参照してください。
 - 既存のサードパーティー証明書を使用する場合は、「X.509証明書(DER)をアップロード」を選択します。この作業の詳細については、[20ページの「サードパーティー証明書を使用する」](#)を参照してください。

▼ レジストリによって生成された証明書を取得する

「ユーザー認証の詳細」ページで「鍵ペアを生成してPKCS12キーストアをダウンロード」ラジオボタンを選択した場合は、次の手順を実行します。

- 1 「ユーザー認証の詳細」ページで、「エイリアス」テキストフィールドにユーザー名を入力します。
- 2 「パスワード」および「パスワード(繰り返し)」テキストフィールドにパスワードを入力します。
パスワードの長さは6文字以上にします。

3 以下のテキストフィールドに値を入力します。

- 「組織単位」
- 「組織」

「名前」フィールドに、「新規ユーザーの詳細」フォームの「姓」に指定した名前が表示されます。「新規ユーザーの詳細」フォームの「市」、「州または都道府県名」、または「国」フィールドにも、指定した値が含まれます。これらのフィールドは編集できません。これらのフィールドを修正する必要がある場合は、「前へ」をクリックして「新規ユーザーの詳細」で修正を行います。

すべてのフィールドを入力する必要があります。

4 「次へ」をクリックします。

「ステップ 4: 鍵を Web ブラウザにロードします」という名前のページが表示され、「新しいユーザーは正常に登録されました。」というメッセージが表示されます。

5 「ダウンロード」をクリックします。

6 ダイアログボックスで、生成された証明書をディスクに保存するオプションを選択します。ファイル選択ダイアログボックスで、ファイルのディレクトリと名前を選択します。

ファイルには必ず .p12 という拡張子を付けます。

デフォルトでは、ユーザーのホームディレクトリ上の generated-key.p12 という名前のファイルに証明書が保存されます。

7 生成された証明書をブラウザにインポートします。

詳細については、21 ページの「Mozilla または Firefox ブラウザへの証明書の読み込み」または 22 ページの「Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み」を参照してください。

▼ サードパーティー証明書を使用する

「ユーザー認証の詳細」ページで「X.509 証明書 (DER) をアップロード」ラジオボタンを選択した場合は、次の手順を実行します。これらの手順を実行すると、証明書がレジストリのサーバーキーストアに配置され、ブラウザに読み込まれます。

始める前に サードパーティー証明書は X.509 形式である必要があります。通常、サードパーティー証明書は .cer という拡張子のファイルに格納されます。

1 「ユーザー認証の詳細」ページで、「証明書ファイルの選択」ボタンをクリックします。

- 2 「ファイルのアップロード」ダイアログボックスで、「ブラウズ」ボタンをクリックしてアップロードするファイルを選択し、「ファイルのアップロード」をクリックします。
- 3 「了解」をクリックします。
「ユーザー認証の詳細」ページの「証明書ファイルの選択」ボタンの隣に、選択したファイル名が表示されます。
- 4 「次へ」をクリックします。
- 5 「ステップ 4: 鍵を Web ブラウザにロードします」ページで、証明書がブラウザにまだ読み込まれていない場合は、指示に従って証明書をブラウザにインポートします。
詳細については、21 ページの「Mozilla または Firefox ブラウザへの証明書の読み込み」または 22 ページの「Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み」を参照してください。

▼ Mozilla または Firefox ブラウザへの証明書の読み込み

- 1 「証明書マネージャー」ウィンドウに移動します。Mozilla または Firefox のバージョンによって、このウィンドウへのパスは以下のいずれかになります。
 - 「編集」→「設定」→「プライバシー」 & 「セキュリティー」→「証明書」→「証明書管理」
 - 「編集」→「設定」→「詳細設定」 & 「セキュリティー」→「証明書を表示」
 - 「ツール」→「オプション」→「詳細設定」 & 「証明書」→「証明書管理」
 - 「ツール」→「オプション」→「詳細設定」 & 「暗号化」→「証明書を表示」「証明書マネージャー」ウィンドウで「あなたの証明書」タブを開きます。
- 2 Mozilla または Firefox の最新バージョンでは、「証明書管理」ボタンをクリックします。Firefox の旧バージョンでは、「証明書を表示」ボタンをクリックします。
- 3 「インポート」ボタンをクリックします。
- 4 「復元用のファイル名」ファイル選択ダイアログボックスで、.p12 証明書ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

- 5 プロンプトダイアログボックスで、ソフトウェアセキュリティーデバイスのマスターパスワードに対するアカウントパスワードを入力します。
このパスワードは、ブラウザアカウント専用であり、ブラウザのプロファイル所有者によって割り当てられます。通常は、クライアントマシンのログインアカウントと同じパスワードを使用します。
- 6 「パスワードの入力」ダイアログボックスで、証明書のパスワードを入力します。
このパスワードは、クライアント証明書を保護するために使用されます。レジストリによって生成された証明書を使用する場合は、「ユーザー認証の詳細」ページで指定したパスワードを入力します。
アラートダイアログボックスに「セキュリティー証明書と秘密鍵が正常に復元されました」というメッセージが表示されます。
- 7 「了解」をクリックします。
- 8 「証明書マネージャー」および「設定/オプション」ダイアログボックスを閉じます。

次の手順 証明書をインポートすると、レジストリにログインする準備が整います。詳細については、[23 ページの「レジストリにログインする」](#)を参照してください。

▼ Internet Explorer Web ブラウザへの証明書の読み込み

- 1 「ツール」メニューから「インターネットオプション」を選択します。
- 2 「コンテンツ」タブをクリックします。
- 3 「証明書」をクリックします。
- 4 「インポート」をクリックして「証明書のインポートウィザード」を開きます。
- 5 「証明書のインポートウィザード」で、「次へ」をクリックします。
- 6 「インポートする証明書ファイル」ページで、「参照」をクリックして .p12 ファイルを選択し、「次へ」をクリックします。
- 7 「パスワード」ページで、次の手順を実行します。
 - a. 証明書に指定したパスワードを入力します。

- b. 「このキーをエクスポート可能にする」チェックボックスを選択します。
 - c. 「秘密キーの保護を強力にする」チェックボックスは選択しないでください。
 - d. 「次へ」をクリックします。
- 8 「証明書ストア」ページで、デフォルトの「証明書をすべて次のストアに配置する」(個人)を選択し、「次へ」をクリックします。
 - 9 「完了」をクリックします。
 - 10 表示された情報ダイアログボックスで「了解」をクリックします。
新しい証明書が、指定した氏名とともに「証明書」ウィンドウに表示されます。
 - 11 「証明書」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
 - 12 「インターネットオプション」ウィンドウで「了解」をクリックします。

次の手順 証明書をインポートすると、レジストリにログインする準備が整います。詳細については、[23 ページの「レジストリにログインする」](#)を参照してください。

▼ レジストリにログインする

証明書をブラウザにインポートすると、ログインする準備が整います。

- 1 「ステップ 4: 鍵を Web ブラウザにロードします」ページで、「完了」ボタンをクリックします。
- 2 Web コンソールのトップバナー領域で、「ログイン」ボタンをクリックします。
- 3 証明書を確認するための各ダイアログボックスで、「了解」をクリックします。
ログインすると、トップバナー領域に「認証に成功しました。」というメッセージが表示されます。また、Web コンソールのバナー領域の現在のユーザーラベルの後ろに、入力した姓名が表示されます。

レジストリに対する認証

レジストリへのログイン後、レジストリオブジェクトの追加、削除、または変更を行うたびに、認証が透過的に行われます。これは、ブラウザに読み込まれたクライアント証明書に基づいて、書き込み要求が認証をトリガーするためです。

認証に成功すると、レジストリへのアクセスが https 経由で行われます。

セッションの有効期限が切れると、それ以降はレジストリによる認証が行われなくなります。その後の書き込み要求では、Web コンソールによる再認証が必要になります。

注- 認証に失敗した場合は、ブラウザを終了してから再起動し、再試行してください。間違って別の証明書を選択してしまってログインできない場合の対処方法については、73 ページの「クライアント証明書選択間違いによるログインエラー」を参照してください。

レジストリの検索

レジストリを検索するには、メニュー領域の「検索」タブと「探索」タブを使用します。

- 25 ページの「「検索」タブの使用」
- 26 ページの「クエリーの選択」
- 27 ページの「オブジェクト型による検索」
- 29 ページの「名前および説明による検索」
- 30 ページの「状態による検索」
- 30 ページの「分類による検索」
- 33 ページの「WSDL クエリーの実行」
- 37 ページの「検索結果の表示」
- 39 ページの「オブジェクトの詳細の表示」
- 42 ページの「「探索」タブの使用」

「検索」タブの使用

「検索」タブをクリックします。「検索」フォームが開きます。このフォームには「定義済みクエリーを選択」コンボボックスがあります。選択したクエリーと 3 つのボタンの内容説明もあります。

- 「検索」。クエリーを実行
- 「消去」。フォームとレジストリオブジェクト領域を消去
- 「ヘルプ」。レジストリ検索のヘルプを提供

フォームの残りのコンテンツは、選択するクエリーによって異なります。デフォルトのクエリーは、基本クエリーです。

- 「定義済みクエリーを選択」コンボボックス
- 「名前」テキストフィールド
- 「説明」テキストフィールド
- ClassificationSchemes ツリー

次に、上記の構成要素の使用方法について説明します。

クエリーの選択

「定義済みクエリーを選択」コンボボックスには、表2-1に示す項目が表示されません。

表2-1 定義済みクエリー

クエリー名	検索の目的
基本クエリー	オブジェクト型、名前、説明、および分類で検索できる、デフォルトの汎用クエリー。
基本クエリー - 大文字と小文字を区別	大文字と小文字を区別する基本クエリー。
すべての所有オブジェクトを検索	クエリーを実行したユーザーが所有する(発行した)すべてのオブジェクトを検索します。ユーザーが多数のオブジェクトを所有している場合は、時間が長くなる場合があります。
呼び出し元のユーザーを取得	クエリーを実行したユーザーの User オブジェクトを検索します。
WSDL 検出クエリー	Web Services Description Language (WSDL) ドキュメントを検出します
WSDL バインディング検出クエリー	WSDL バインディング定義として記述されている抽象サービスインタフェースのプロトコルバインディングを検出します
WSDL ポート検出クエリー	WSDL ポート定義として記述されているサービスインタフェースの実装を検出します
WSDL ポートタイプ検出クエリー	WSDL ポートタイプ定義として記述されている抽象サービスインタフェースを検出します
WSDL サービス検出クエリー	WSDL サービス定義として記述されている Web サービスを検出します

デフォルトでは、基本クエリーが選択されています。基本クエリーと基本クエリー - 大文字と小文字を区別の検索フォームのコンポーネントは次のとおりです。

- 「オブジェクト型」コンボボックス
- 「名前」テキストフィールド
- 「説明」テキストフィールド
- 「状態」コンボボックス
- 「Classification ノードの選択」ボタン

1つの検索で、これらのいずれかの条件またはすべての条件を指定できます。基本クエリーの実行方法について次に説明します。

- 27 ページの「オブジェクト型による検索」
- 29 ページの「名前および説明による検索」
- 30 ページの「状態による検索」
- 30 ページの「分類による検索」

自分が発行したすべてのオブジェクトを検索する場合は、「すべての所有オブジェクトを検索」クエリーを使用します。クエリー結果には、`AuditableEvent` オブジェクトを除くユーザー保有のすべてのオブジェクトが表示されます。これらを編集または削除することはできません。

登録時に作成したユーザーのデータを表示して変更する場合は、「呼び出し元のユーザーを取得」クエリーを使用します。

WSDL クエリーの使用については、33 ページの「WSDL クエリーの実行」を参照してください。

オブジェクト型による検索

もっとも簡単な検索は、オブジェクト型のみを指定する検索です。

「オブジェクト型」コンボボックスでは、デフォルトでレジストリ内のすべてのオブジェクトを検索する「RegistryObject」が選択されています。検索範囲を絞り込むには、オブジェクト型を変更します。

ClassificationNode 選択には、ClassificationSchemes に含まれる Concept が表示されます。ClassificationNode は Concept の同義語です。

表 2-2 に、レジストリで使用可能なオブジェクト型を示します。

表 2-2 Service Registry のオブジェクト型

オブジェクト型	説明
AdhocQuery	クエリー構文に表示される Ad hoc クエリーを示します。AdhocQuery オブジェクトを使用してレジストリオブジェクトを検出します。AdhocQuery オブジェクトの目的は、リレーショナルデータベースのストアプロシージャと似ています。たとえば、検索パネル内の定義済みクエリーはすべて AdhocQuery オブジェクトです。
Association	2つのオブジェクト間の関係を定義します。

表 2-2 Service Registry のオブジェクト型 (続き)

オブジェクト型	説明
AuditableEvent	オブジェクトへの変更レコードを提供します。AuditableEvent オブジェクトのコレクションはオブジェクトの監査証跡を構成しています。
Classification	ClassificationScheme を使用してオブジェクトを分類します。
ClassificationNode	内部 ClassificationScheme のほかの要素と構造関係を持つ分類要素を表します。Concept とも呼ばれます。
ClassificationScheme	オブジェクトを分類する分類法を表します。内部 ClassificationScheme では、すべての分類要素はレジストリで Concept インスタンスとして定義されます。外部 ClassificationScheme では、値はレジストリで Concept インスタンスとして定義されず、String 表現によって参照されます。
ExternalIdentifier	識別スキーマ内の String 値 (外部 ClassificationScheme) を使用して、オブジェクトについての追加情報を提供します。識別スキーマの例として、DUNS 番号や社会保障番号があります。
ExternalLink	レジストリ外にあるコンテンツの URI を提供します。
ExtrinsicObject	送信されたコンテンツの型が、本質的にレジストリにとって既知ではないために、MIME タイプなどの追加属性によって記述する必要がある場合、この型を記述するメタデータを提供します。
Federation	レジストリの関連グループを表します。
Notification	Subscription と一致するイベントに関する、レジストリからの通知を表します。
Organization	組織についての情報を提供します。1つの親組織、および1つまたは複数の子組織を持つことができます。主担当者として常に User オブジェクトがあり、Service オブジェクトを提供できます。
Person, User	レジストリ内の個人および登録ユーザーについての情報を提供します。User オブジェクトは Organization オブジェクトと関連します。
Registry	レジストリを表します。
RegistryPackage	任意の数のレジストリオブジェクトの論理グループ化を表します。
Service	サービスに関する情報を提供します。1つまたは複数の ServiceBinding オブジェクトを含むことができます。
ServiceBinding	サービスへのアクセス方法に関する技術情報を表します。
SpecificationLink	ServiceBinding 間のリンケージ、および ServiceBinding を使用してサービスを使用する方法を示す技術仕様を提供します。

表 2-2 Service Registry のオブジェクト型 (続き)

オブジェクト型	説明
Subscription	任意のタイプの <code>AuditableEvent</code> に関する <code>User</code> の興味を定義します。 <code>User</code> は <code>Subscription</code> を作成して、任意のタイプのイベントの通知を受信します。

▼ オブジェクト型で検索する

- 1 「オブジェクト型」コンボボックスからオブジェクト型を選択します。
- 2 「検索」ボタンをクリックするか、「名前」または「説明」テキストフィールドにカーソルを置いて改行キーを押します。

検索の結果、指定した型のオブジェクトがすべて返されます。名前、説明、状態、または分類を指定して、検索範囲を絞り込むことができます。

名前および説明による検索

オブジェクトは名前、説明、またはその両方で検索できます。

▼ 名前および説明で検索する

- 1 「名前」フィールドまたは「説明」フィールドに文字列を入力します。
デフォルトでは、入力した文字列全体に一致する名前または説明が検索されます。ワイルドカードを使用すると、一定範囲のオブジェクトを検索できます。
ワイルドカード文字は、パーセント (%) と下線 (_) です。
パーセントワイルドカードは、次のように複数の文字に一致します。
 - **%off%** と入力すると、文字列 `off` を含む名前または説明 (`Coffee` など) が返されません。
 - **nor%** と入力すると、`Nor` または `nor` で始まる名前または説明 (`North` や `northern` など) が返されます。
 - **%ica** と入力すると、`ica` で終わる名前または説明 (`America` など) が返されます。
 下線ワイルドカードは、1つの文字に一致します。たとえば、検索文字列を `_us_` とすると、`Aus1` や `Bus3` などの名前を持つオブジェクトに一致します。
- 2 「検索」ボタンをクリックするか、改行キーを押します。

状態による検索

レジストリのオブジェクトには、以下のいずれかの状態を設定できます。

- 承認
- 非推奨
- 送付
- 撤回

レジストリのオブジェクトのデフォルト状態は「送付」です。オブジェクトはレジストリ管理者またはオブジェクト所有者によって承認または非推奨にすることができます。ExtrinsicObject のリポジトリ項目が削除されている場合、状態は「撤回」になります。

▼ 状態で検索する

- 1 「状態」コンボボックスから「状態」を選択します。
- 2 「検索」ボタンをクリックするか、「名前」または「説明」テキストフィールドにカーソルを置いて改行キーを押します。

検索の結果、指定した状態のオブジェクトがすべて返されます。オブジェクト型、名前、説明、または分類を指定して、検索範囲を絞り込むことができます。

分類による検索

Classification オブジェクトは、Classification Scheme 内部の有効な値を定義する固有の Concept (ClassificationNodes) を使用してレジストリ内のオブジェクトを分類します。Classification Scheme は、子 Concept の世代を含むツリー構造の親です。表 2-3 に、レジストリ仕様によって提供される Classification Scheme を示します。これらは *canonical classification schemes* と呼ばれます。この表に示した用語の多くは、レジストリの仕様で定義されています。

表 2-3 標準的な Classification Scheme

Classification Scheme 名	使用頻度	説明または目的
AssociationType	頻繁	レジストリオブジェクト間の関連のタイプを定義します。Association インスタンスの associationType 属性の値として使用され、関連の性質を記述します。

表 2-3 標準的な Classification Scheme (続き)

Classification Scheme 名	使用頻度	説明または目的
ContentManagementService	まれ	コンテンツ管理サービスのタイプを定義します。検証サービスやカタログサービスなどのコンテンツ管理サービスの設定で使用されます。
DataType	頻繁	オブジェクト属性のデータ型を定義します。Slot インスタンスの slotType 属性の値として使用され、Slot 値のデータ型を記述します。
DeletionScopeType	随時	RemoveObjectsRequest プロトコルメッセージの deletionScope 属性の値を定義します。
EmailType	まれ	電子メールアドレスのタイプを定義します。
ErrorHandlingModel	まれ	コンテンツ管理サービスのエラー処理モデルのタイプを定義します。
ErrorSeverityType	まれ	プロトコルメッセージの処理中にレジストリに発生するエラーの重要度のタイプを定義します。
EventType	随時	レジストリに発生するイベントのタイプを定義します。
InvocationModel	まれ	レジストリによるコンテンツ管理サービスの呼び出し方法を定義します。
NodeType	随時	ClassificationScheme が ClassificationNode (Concept) オブジェクトの code 属性の値を割り当てる方法を定義します。
NotificationOptionType	まれ	レジストリが Subscription 内のイベントを必要なクライアントに通知する方法を定義します。
ObjectType	随時	レジストリがサポートする RegistryObject のタイプを定義します。
PhoneType	まれ	電話番号のタイプを定義します。
QueryLanguage	まれ	レジストリがサポートするクエリ言語を定義します。

表 2-3 標準的な Classification Scheme (続き)

Classification Scheme 名	使用頻度	説明または目的
ResponseStatusType	まれ	RegistryResponse の状態のタイプを定義します。
StatusType	随時	RegistryObject の状態のタイプを定義します。
SubjectGroup	まれ	アクセス制御のためにユーザーが所属するグループを定義します。
SubjectRole	まれ	アクセス制御のためにユーザーに割り当てられるロールを定義します。

標準的な ClassificationScheme の主な目的は、オブジェクトを分類することではなく、オブジェクト属性の列挙型を提供することです。レジストリには多数の非標準 ClassificationScheme を含めることも可能で、独自の ClassificationScheme を作成できます。

▼ 分類で検索する

- 1 「**Classification** ノードの選択」 ボタンをクリックします。
「Classification Node Selector」 ウィンドウが表示されます。
- 2 使用する **Classification Scheme** のフォルダアイコンをクリックします。
各エントリのあとに付く括弧の数は、親に含まれる Concept (ClassificationNode オブジェクト) の数を示しています。
- 3 **Classification Scheme** の下の **Concept** ノードを展開し、検索条件として使用する葉ノードを見つけます。葉ノードとは、その下に **Concept** がないノードです。
- 4 見つかった葉ノードを選択します。
- 5 「**Classification Node Selector**」 ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
「値」テキストフィールドに、選択する Concept の ID が表示されます。
- 6 「検索」 ボタンをクリックするか、「名前」または「説明」 テキストフィールドにカーソルを置いて改行キーを押します。

WSDL クエリーの実行

検索パネルには定義済みクエリーが含まれています。これにより、さまざまな検索条件を使用して WSDL ファイルを検索できます。

- WSDL 検出クエリー
- WSDL バインディング検出クエリー
- WSDL ポート検出クエリー
- WSDL ポートタイプ検出クエリー
- WSDL サービス検出クエリー

ここでは、これらの検索の実行方法を説明します。これらすべての検索について、必要な数だけ検索条件を指定できます。

▼ WSDL 検出クエリーを実行する

- 1 「定義済みクエリーを選択」コンボボックスから「WSDL 検出クエリー」を選択します。
検索フォームが表示されます。
- 2 「名前」または「説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します。
- 3 「状態」コンボボックスから値を選択します。
- 4 「ターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
- 5 「検索」をクリックするか改行キーを押します。

▼ WSDL バインディングクエリーを実行する

- 1 「定義済みクエリーを選択」コンボボックスから「WSDL バインディングクエリー」を選択します。
検索フォームが表示されます。
- 2 「バインディング名」または「バインディングの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します
- 3 「バインディングの状態」コンボボックスから値を選択します。
- 4 「バインディングのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
- 5 「バインディングのプロトコルタイプ」コンボボックスから値を選択します。

- 6 「バインディングのトランスポートタイプ」コンボボックスから値を選択します。
- 7 「SOAP バインディングスタイル」コンボボックスから値を選択します。
- 8 任意で「ポートタイプを考慮に入れる」チェックボックスも選択できます。このチェックボックスを選択した場合、次の操作を行います。
 - a. 「ポートタイプ名」または「ポートタイプの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します。
 - b. 「ポートタイプの状態」コンボボックスから値を選択します。
 - c. 「ポートタイプのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
- 9 「検索」をクリックするか改行キーを押します。

▼ WSDL ポート検出クエリーを実行する

- 1 「定義済みクエリーを選択」コンボボックスから「WSDL ポート検出クエリー」を選択します。
検索フォームが表示されます。
- 2 「ポート名」または「ポートの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します。
- 3 「ポートの状態」コンボボックスから値を選択します。
- 4 「ポートのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
- 5 「ポートのエンドポイント」フィールドに値を入力します。
- 6 任意で「バインディングを考慮に入れる」チェックボックスも選択できます。このチェックボックスを選択する場合、次の操作を行います。
 - a. 「バインディング名」または「バインディングの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します。
 - b. 「バインディングの状態」コンボボックスから値を選択します。
 - c. 「バインディングのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
 - d. 「バインディングのプロトコルタイプ」コンボボックスから値を選択します。

- e. 「バインディングのトランスポートタイプ」コンボボックスから値を選択します。
 - f. 「SOAPバインディングスタイル」コンボボックスから値を選択します。
 - g. 任意で「ポートタイプを考慮に入れる」チェックボックスも選択できます。このチェックボックスを選択する場合、次の操作を行います。
 - i. 「ポートタイプ名」または「ポートタイプの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します
 - ii. 「ポートタイプの状態」コンボボックスから値を選択します。
 - iii. 「ポートタイプのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
- 7 「検索」をクリックするか改行キーを押します。

▼ WSDL ポートタイプ検出クエリーを実行する

- 1 「定義済みクエリーを選択」コンボボックスから「WSDL ポートタイプ検出クエリー」を選択します。
検索フォームが表示されます。
- 2 「ポートタイプ名」または「ポートタイプの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します
- 3 「ポートタイプの状態」コンボボックスから値を選択します。
- 4 「ポートタイプのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
- 5 「検索」をクリックするか改行キーを押します。

▼ WSDL サービス検出クエリーを実行する

- 1 「定義済みクエリーを選択」コンボボックスから「WSDL サービス検出クエリー」を選択します。
検索フォームが表示されます。
- 2 「サービス名」または「サービスの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します

- 3 「サービスの状態」コンボボックスから値を選択します。
- 4 「サービスのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
- 5 任意で「ポートを考慮に入れる」チェックボックスも選択できます。このボックスを選択する場合、次の操作を行います。
 - a. 「ポート名」または「ポートの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します。
 - b. 「ポートの状態」コンボボックスから値を選択します。
 - c. 「ポートのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
 - d. 「ポートのエンドポイント」フィールドに値を入力します。
 - e. 任意で「バインディングを考慮に入れる」チェックボックスも選択できます。このチェックボックスを選択する場合、次の操作を行います。
 - i. 「バインディング名」または「バインディングの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します。
 - ii. 「バインディングの状態」コンボボックスから値を選択します。
 - iii. 「バインディングのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
 - iv. 「バインディングのプロトコルタイプ」コンボボックスから値を選択します。
 - v. 「バインディングのトランスポートタイプ」コンボボックスから値を選択します。
 - vi. 「SOAP バインディングスタイル」コンボボックスから値を選択します。
 - vii. 任意で「ポートタイプを考慮に入れる」チェックボックスも選択できます。このチェックボックスを選択する場合、次の操作を行います。

「ポートタイプ名」または「ポートタイプの説明」フィールドあるいはその両方に値を入力します

「ポートタイプの状態」コンボボックスから値を選択します。

「ポートタイプのターゲット名前空間」フィールドに値を入力します。
- 6 「検索」をクリックするか改行キーを押します。

次の手順 検索したサービスに関連付けられている WSDL ファイルを見つけるには、[37 ページの「サービスの WSDL 文書を検索する」](#)を参照してください。

▼ サービスの WSDL 文書を検索する

サービスを検索したあとは、通常はサービスに関連付けられた WSDL ファイルを検索し、このファイルを使用してサービスと通信するクライアントプロキシを作成します。そのためには、以下のステップに従います。

- 1 サービスオブジェクトの詳細リンクをクリックします。
- 2 「関連付け」タブをクリックします。
ソースオブジェクト列には WSDL というリンクがあります。
- 3 **WSDL** リンクをクリックします。
「詳細」ウィンドウが表示されます。
- 4 「リポジトリ項目の内容を表示」をクリックして **WSDL** ファイルを表示します。
- 5 ブラウザの「名前を付けて保存」メニュー項目を使用して、ファイルをローカルシステムに保存します。

検索結果の表示

検索で見つかったオブジェクトは、「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。

「レジストリオブジェクト」領域は、次の要素で構成されます。

- オブジェクトに対する操作を実行するための「適用」、「承認」、「非推奨」、「非推奨解除」、「ブックマーク」、「関連付け」、「削除」、または「状態の設定または変更」の各ボタン。「ブックマーク」以外のこれらの操作を実行するには、オブジェクトの作成者またはレジストリ管理者である必要があります。
- 見つかったオブジェクトの表示。これは検索結果の表から成ります。大部分のオブジェクトでは、表の中に次の列が表示されます。
 - 「選択」チェックボックス。2つのオブジェクトを選択すると、「関連付け」ボタンが有効になります。詳細については、[67 ページの「オブジェクト間の関係の作成」](#)を参照してください。1つまたは複数のオブジェクトを選択し、別のボタンをクリックしてその操作を実行します。その操作の実行権限を持っていない場合、エラーメッセージが表示されます。

- 「詳細」リンク。このリンクをクリックすると、「レジストリオブジェクト」領域のすぐ下に「詳細」領域が開きます (39 ページの「オブジェクトの詳細の表示」を参照)。
- 「オブジェクト型」フィールド。
- 「名前」フィールド。
- 「説明」フィールド。
- 「バージョン」フィールド。
- 「バージョンコメント」フィールド。
- 「状態」フィールド。

ExtrinsicObject オブジェクトの場合は、「コンテンツのバージョン」と「コンテンツのバージョンコメント」の2つの列が追加されます。これらの列は、ExtrinsicObject のリポジトリ項目に適用されます。

次の2つのオブジェクトでは、「バージョン」列と「バージョンコメント」列が次のように別のコンテンツに置き換わります。

- ExternalLink オブジェクト: 外部 URI
- ServiceBinding オブジェクト: エンドポイント

▼ ブックマーク機能を使用する

ユーザーインタフェースのブックマーク機能を使用すると、別のオブジェクトの検索中に1つまたは複数のオブジェクトを「レジストリオブジェクト」領域に固定できます。その後、2つのオブジェクト間の関係を作成できます。この方法の詳細については、67 ページの「オブジェクト間の関係の作成」を参照してください。

- 1 「検索」をクリックしてクエリーを実行します。
- 2 「レジストリオブジェクト」領域で固定する1つまたは複数のオブジェクトの「選択」チェックボックスを選択し、「ブックマーク」ボタンをクリックします。
検索結果の上の「ブックマークオブジェクト」領域にオブジェクトが表示されます。
- 3 別のクエリーを実行します。

次の手順 ブックマークオブジェクトを使用し終わったら、そのオブジェクトの「選択」チェックボックスを選択して「ブックマークを削除」ボタンをクリックします。オブジェクトは「ブックマークオブジェクト」領域から削除されます。そのオブジェクトが「ブックマークオブジェクト」領域の唯一のオブジェクトであった場合、「ブックマークオブジェクト」領域は消えます。

オブジェクトの詳細の表示

検索結果の表で、オブジェクトの「詳細」リンクをクリックすると、「レジストリオブジェクト」領域のすぐ下に「詳細」領域が開きます。

このセクションには、次のように一連のボタンとタブが表示されます。

- 表示されるボタンは、「適用」、「保存」、「取消し」、「承認」、「非推奨」、「非推奨解除」、「削除」、および「状態の設定または変更」です。これらのボタンは、オブジェクトに対して実行できる操作を表しています。
- タブは、オブジェクトの属性を表しています。タブは、オブジェクト型によって異なります。表2-4は、タブの種類と各タブが適用されるオブジェクトを示しています。

表2-4 「詳細」領域の属性タブ

タブ名	適用先
Object-Type 詳細	すべてのオブジェクト (Object_Type はオブジェクト型の名前)
スロット	すべてのオブジェクト
Classification	すべてのオブジェクト
外部識別子	すべてのオブジェクト
Associations	すべてのオブジェクト
外部リンク	すべてのオブジェクト
監査証跡	すべてのオブジェクト
住所	Organization、User
電話番号	Organization、User
電子メールアドレス	Organization、User
ユーザー	Organization
Organization	Organization
サービスバインディング	Service
仕様リンク	ServiceBinding
Concept	ClassificationScheme、ClassificationNode
Members	RegistryPackage
Affected Objects	AuditableView

タブをクリックすると、オブジェクトに属性の値が存在するかどうかわかります。値が存在する場合は、属性値の「詳細」リンクをクリックすると、ブラウザのウィンドウが開き、属性値の詳細が表示されます。

「関連付け」タブでは、各関連付けに3つのリンクを持つテーブルが生成されます。

- 詳細
- ソースオブジェクト (オブジェクト型が表示される)
- ターゲットオブジェクト (オブジェクト型が表示される)

ソースオブジェクト列およびターゲットオブジェクト列では、関連付けを表示しているオブジェクトの型が太字で表示されます。

「監査証跡」タブには、「詳細」リンクを含む表は表示されません。代わりに、このタブには次の情報を示す表が表示されます。

- イベントタイプ
- イベントの日時
- イベントを発生させたユーザーの名前

大部分のオブジェクトでは、「詳細」領域に次のフィールドが表示されます。

- 「一意の識別子」。すべてのオブジェクトで、「一意の識別子」はアクティブなリンクです。このリンクをクリックすると、ブラウザのウィンドウにそのオブジェクトのXMLが表示されます。レジストリオブジェクトはすべてXML形式で保存されています。
- 「論理一意識別子」。「論理一意識別子」は、通常、「一意の識別子」と同じです。バージョン管理を有効にした場合、「論理一意識別子」はオブジェクトのすべてのバージョンで同じですが、新しいバージョンの「一意の識別子」にはバージョン番号を示すサフィックスが付きます。
- 「名前」。
- 説明
- 「状態」(通常は、オブジェクトがレジストリに発行されたことを示す「送付されました」)。
- 「バージョン」。
- 「バージョンコメント」。

多くのオブジェクトで、ほとんどのフィールドが説明を必要としません (Organization の住所など)。一部のオブジェクトには、説明を必要とするフィールドがあります。これらのフィールドについて次に説明します。

- 41 ページの「[Association の詳細の表示](#)」
- 41 ページの「[Classification Scheme の詳細の表示](#)」
- 42 ページの「[付帯オブジェクトの詳細の表示](#)」
- 42 ページの「[外部リンクの詳細の表示](#)」

Associationの詳細の表示

Association オブジェクトの「詳細」領域には、次のフィールドが追加表示されます。

- 「ソースオブジェクト」と「ターゲットオブジェクト」。関連のソースオブジェクトとターゲットオブジェクトの両方について、パネルに名前とオブジェクト型が表示されます。「ソースの所有者により確認済み」チェックボックスは、関連がソースオブジェクトの所有者によって確認または承認されたかどうかを示します。「ターゲットの所有者により確認済み」チェックボックスは、関連がターゲットオブジェクトの所有者によって確認または承認されたかどうかを示します。区域内の関連の場合、これらのチェックボックスは常に選択されています。
- 「Association タイプ」。コンボボックスに選択された Association のタイプが表示されます。
- 「区域外」。このチェックボックスは、2つの関連するオブジェクトのうち少なくとも1つが Association を作成した User 以外の User によって所有される場合に選択されます。それ以外の場合、Association は区域内として定義されます。

Classification Schemeの詳細の表示

ClassificationScheme オブジェクトの「詳細」領域には、次のフィールドが追加表示されます。

- 「外部 Classification Scheme」チェックボックス。このチェックボックスは、Classification Scheme がレジストリの外部で定義され、Concept を持たない場合に選択されます。内部 Classification Scheme の場合は、Concept の階層がレジストリの内部で定義されています。
- 「値タイプ」コンボボックス。次の選択項目があります。
 - 「一意」。この値は、分類基準の各ノードに一意のコードが割り当てられることを示します。これは、Service Registry で Classification Scheme を作成した場合のデフォルト値です。
 - 「組み込まれたパス」。この値は、分類基準の各ノードに割り当てられた一意のコードにノードのパスもエンコードされることを示します。
 - 「一意でない」。ノードが一意でなく、ノードの識別に ClassificationScheme から該当するノードまでの完全なパスを使用する必要がある場合があります。たとえば、地理的な分類では、Moscow が Russia の下と USA の下の両方に存在する可能性があります。これは、米国の5つの州に Moscow という名前の都市があるためです。

付帯オブジェクトの詳細の表示

ExtrinsicObject オブジェクトの「詳細」領域には、次のフィールドが追加表示されます。

- 「コンテンツのバージョン」と「コンテンツのバージョンコメント」の2つの列が追加されます。「詳細」領域には、付帯オブジェクトに関連付けられたリポジトリ項目のバージョンと省略可能なコメントが表示されます。
- 「MIMETYPE」。このフィールドには、付帯オブジェクトのMIMEタイプが表示されます。
- 「不透明?」チェックボックス。このチェックボックスは、暗号化されているなどの理由により、レジストリがリポジトリ項目の内容を読み取ることができない場合に選択されます。
- 「オブジェクト型」。このフィールドには、ObjectType/ExtrinsicObject ツリー内の下位 Concept が表示されます。
- 「コンテンツを表示」。「リポジトリ項目の内容を表示」リンクをクリックすると、ブラウザのウィンドウにそのリポジトリ項目が表示されます。

外部リンクの詳細の表示

ExternalLink オブジェクトの「詳細」領域には、次のフィールドが追加表示されます。

- 「オブジェクト型」。このフィールドには、ExternalLink オブジェクト型または ObjectType/ExtrinsicObject ツリー内の下位 Concept が表示されます。
- 「オブジェクト型の Concept を選択」ボタン。このボタンをクリックして、外部 URI のコンテンツを表す ObjectType/ExtrinsicObject ツリー内の下位 Concept を選択します。
- 「外部 URI」フィールドのしたの「コンテンツを表示」リンク。このリンクをクリックすると、ブラウザのウィンドウに URI のコンテンツが表示されます。

「探索」タブの使用

「探索」タブを使用すると、ファイルフォルダの階層のメタファーを使用してレジストリとリポジトリのコンテンツを検索できます。registry という名前のルートフォルダにすべてのレジストリコンテンツが含まれます。

▼ 「探索」タブを使用する

- 1 「探索」リンクをクリックします。

- 2 registryという名前のフォルダをクリックします。このフォルダには、2つのサブフォルダがあります。すべてのユーザーコンテンツが置かれているフォルダである `userData` と `ClassificationSchemes` です。
- 3 リンクをクリックすると、該当する型のレジストリオブジェクトが表示されます。フォルダをクリックするかノードを展開すると、次のレベルのオブジェクト型が表示されます。

▼ Classification Scheme を探索する

- 1 `ClassificationSchemes` フォルダをクリックし、メニュー領域に `ClassificationSchemes` のツリー階層を開きます。
- 2 任意のリンクをクリックすると、その `Classification Scheme` が「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。
- 3 `Classification Scheme` フォルダをクリックすると、その下にある `Concept` が表示されます。
Concept アイコンがフォルダである場合、下位 `Concept` が存在します。アイコンをクリックしてこれらを展開できます。Concept icons がファイルである場合、下位 `Concept` は存在しません。
Classification scheme フォルダがファイルアイコンである場合、Classification Scheme には「探索」領域で表示可能な `Concept` はありません。
- 4 `Concept` リンクをクリックすると、その `Concept` が「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。

▼ userData フォルダを探索する

- 1 `userData` ノードを展開します。
- 2 `RegistryObject` ノードを展開します。すべてのレジストリオブジェクトを表示する場合以外は、このリンクをクリックしないでください。
- 3 フォルダをクリックすると、該当する型のレジストリオブジェクトが表示されます。ノードを展開すると、次のレベルのオブジェクト型が表示されます。

レジストリオブジェクトの発行と管理

「新規レジストリオブジェクトを作成」メニュー項目を選択すると、オブジェクトを作成してレジストリに発行できます。この章では、以下のタスクについて説明します。

- 45 ページの「オブジェクトの発行」
- 56 ページの「オブジェクトへの分類の追加」
- 56 ページの「オブジェクトへの外部識別子の追加」
- 57 ページの「オブジェクトへの外部リンクの追加」
- 58 ページの「スロットによるオブジェクトへのカスタム情報の追加」
- 59 ページの「住所の Organization または User への追加」
- 60 ページの「Organization または User への電話番号の追加」
- 60 ページの「電子メールアドレスの Organization または User への追加」
- 61 ページの「Organization への User の追加」
- 62 ページの「Organization への子組織の追加」
- 62 ページの「Service へのサービスバインディングの追加」
- 63 ページの「サービスバインディングへの仕様リンクの追加」
- 64 ページの「子 Concept の Classification Scheme または Concept への追加」
- 65 ページの「レジストリパッケージへのオブジェクトの追加」
- 66 ページの「オブジェクトの状態の変更」
- 67 ページの「オブジェクトの削除」
- 67 ページの「オブジェクト間の関係の作成」

オブジェクトの発行

オブジェクトをレジストリに発行するには、次の3つの手順が必要です。

1. オブジェクトを作成します。
2. 詳細やその他のオブジェクトを追加します。これらはメモリーに保存されますが、レジストリには発行されません。
3. オブジェクトをレジストリに発行します。

オブジェクトをレジストリに発行できるのは、ユーザーアカウントの作成とログインが完了している場合です。ユーザーアカウントの作成を行うには、[18 ページ](#)の「[ユーザーアカウントの作成](#)」の手順に従います。

最初のタスクでは、新規オブジェクトを作成する手順について説明します。後続の各セクションでは、特定の種類のオブジェクトを発行するための追加手順について説明します。

[表 2-2](#)に表示されているすべてのオブジェクトを作成および発行できます。ただし、以下の例外があります。

- **Association**。Association オブジェクトの作成について詳しくは、[67 ページ](#)の「[オブジェクト間の関係の作成](#)」を参照してください。
- **Classification**。Classification は常に合成オブジェクトとして作成します。詳細については [56 ページ](#)の「[オブジェクトへの分類の追加](#)」を参照してください。
- **Notification**。Notification は、特定のイベントが発生したときに、レジストリによって Subscription オブジェクトで指定されたとおりに作成されます。
- **ServiceBinding**。ServiceBinding は常に Service 内の合成オブジェクトとして作成します。詳細については [62 ページ](#)の「[Service へのサービスバインディングの追加](#)」を参照してください。
- **SpecificationLink**。SpecificationLink は常に ServiceBinding 内の合成オブジェクトとして作成します。詳細については [63 ページ](#)の「[サービスバインディングへの仕様リンクの追加](#)」を参照してください。
- **Subscription**。Subscription の作成は、現在は管理タスクです。

ここでは、次の作業について説明します。

- [47 ページ](#)の「[新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する](#)」
- [48 ページ](#)の「[AdhocQuery オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [48 ページ](#)の「[ClassificationNode オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [49 ページ](#)の「[ClassificationScheme オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [49 ページ](#)の「[ExternalLink オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [50 ページ](#)の「[ExtrinsicObject オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [52 ページ](#)の「[Federation オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [53 ページ](#)の「[Organization オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [53 ページ](#)の「[Person または User オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [54 ページ](#)の「[Registry オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [55 ページ](#)の「[RegistryPackage オブジェクトを作成および発行する](#)」
- [55 ページ](#)の「[Service オブジェクトを作成および発行する](#)」

▼ 新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する

- 1 左メニュー領域の「タスク」タブで、「新規レジストリオブジェクトを作成」をクリックします。
- 2 「レジストリオブジェクト」領域で、コンボボックスからオブジェクト型を選択し、「追加」をクリックします。
「詳細」領域に、オブジェクトの「詳細」フォームが表示されます。
- 3 「名前」フィールドに名前を入力します。
- 4 (省略可能)「説明」フィールドに説明を入力します。
- 5 (省略可能)「バージョンコメント」フィールドにコメントを入力します。
- 6 (省略可能)割り当てられた「一意の識別子」と「論理一意識別子」を自分で選んだ識別子に置き換えます。
識別子は、有効な URN であり、レジストリのインストール内部で一意である必要があります。
- 7 オブジェクト型固有のフィールドにデータを入力します。
- 8 「保存」をクリックして、オブジェクトをメモリーに保存します。

注-別のタブに移動する前に、タブ領域でオブジェクトに加えた変更内容を必ず保存してください。保存しないと、変更内容は失われます。

- 9 (省略可能)「詳細」フォームのタブを使用して、合成オブジェクトを追加および保存します。
- 10 「適用」をクリックして、オブジェクトをレジストリに発行します。
正常に適用されたかどうかを示す状態メッセージが表示されます。

次の手順 オブジェクトを発行する前またはあとで、ほかの合成オブジェクトを追加することによってオブジェクトを編集できます。表 2-4 は、追加できるオブジェクトを示しています。これらのオブジェクトの追加方法についてはあとで説明します。

▼ AdhocQuery オブジェクトを作成および発行する

AdhocQuery オブジェクトは、クエリー構文に表示される Ad hoc クエリーを表します。AdhocQuery オブジェクトを使用してレジストリオブジェクトを検出します。AdhocQuery オブジェクトの目的は、リレーショナルデータベースのストアドプロシージャと似ています。たとえば、検索パネル内の定義済みクエリーはすべて AdhocQuery オブジェクトです。

- 1 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 1-6 を実行します。ステップ 2 で **AdhocQuery** を選択します。
- 2 (省略可能) 「クエリータイプ」コンボボックスからクエリータイプを選択します。デフォルトは SQL クエリーです。ほかにサポートされているクエリータイプは XQuery と ebXML フィルタクエリーです。

- 3 「クエリー文字列」フィールドにクエリーのテキストを入力します。SQL クエリーの場合、通常は単一引用符で囲む項目を、単一引用符のペアで囲みます。このような項目として、一般にサブクエリーに含まれるパラメータプレースホルダーやリテラルがあります。たとえば、サブクエリー内のパラメータプレースホルダーは、次のように指定します。

```
(SELECT id FROM ClassificationNode WHERE path LIKE '$objectTypePath')
```

リテラルとパラメータプレースホルダーの両方を指定する場合は、次のようにします。

```
... AND (ro.id = s.parent AND s.name_ =  
''urn:oasis:names:tc:ebxml-regrep:profile:ws:wSDL:nameSpacesUsed''  
AND s.value LIKE '$nameSpacePattern')
```

- 4 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 8-10 を実行します。

▼ ClassificationNode オブジェクトを作成および発行する

ClassificationNode オブジェクトは、内部 Classification Scheme のほかの要素と構造関係を持つ分類要素を表します。ClassificationNode オブジェクトを作成して Classification Scheme に追加することもできますが、ClassificationScheme 詳細パネルの「Concept」タブを使用して Concept を作成する方が簡単です。

- 1 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 1-6 を実行します。ステップ 2 で **ClassificationNode** を選択します。

- 2 「値」フィールドにClassificationNodeオブジェクトの値を入力します。
「Classification Scheme」、「親ID」、「パス」の各フィールドはグレー表示されています。
- 3 47ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ8-10を実行します。

▼ ClassificationScheme オブジェクトを作成および発行する

ClassificationScheme オブジェクトはオブジェクトの分類に使用する分類法を表します。内部 ClassificationScheme では、すべての分類要素はレジストリで Concept インスタンスとして定義されます。外部 ClassificationScheme では、値はレジストリで Concept インスタンスとして定義されず、String 表現として参照されます。

- 1 47ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ1-6を実行します。ステップ2で**ClassificationScheme**を選択します。
「外部 Classification Scheme」チェックボックスが選択されていて、schemeに Concept がないことを示しています。Classification scheme に Concept を追加すると、チェックボックスは選択解除になります。
- 2 「値タイプ」コンボボックスから値を選択します。
 - 「Unique」。分類基準の各ノードに一意のコードが割り当てられることを示します。
 - 「Embedded Path」。分類基準の各ノードに割り当てられた一意のコードにノードのパスもエンコードされることを示します。
 - 「Non-Unique」。ノードが一意でなく、ノードの識別に ClassificationScheme から該当するノードまでの完全なパスを使用する必要がある場合があります。
デフォルトは Unique です。
- 3 47ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ8-10を実行します。

▼ ExternalLink オブジェクトを作成および発行する

ExternalLink オブジェクトはレジストリ外部にあるコンテンツの URI を提供します。

- 1 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#)のステップ1-6を実行します。ステップ2で **ExternalLink** を選択します。
「オブジェクト型」フィールドには値 **ExternalLink** が含まれます。
- 2 (省略可能)「オブジェクト型の **Concept** を選択」 ボタンをクリックして、**URI** によって参照されるデータのオブジェクト型を選択します。
「Extrinsic Object Classification Node Selector」ウィンドウで **ExtrinsicObject** 型の適切な **Concept** が表示されるまでノードを展開します。「了解」をクリックすると、「オブジェクト型」ウィンドウに選択した型が表示されます。
- 3 「外部 **URI**」フィールドに外部リンクの **URI** を入力します。
- 4 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#)のステップ8-10を実行します。

注-**ExternalLink** オブジェクトを保存しようとしてエラーが発生した場合、管理タスクを実行する必要があることを示します。詳細については [72 ページ](#) の「**ExternalLink** や **ServiceBinding** を作成できない」を参照してください。

▼ ExtrinsicObject オブジェクトを作成および発行する

ExtrinsicObject は、コンテンツの型が本質的にレジストリにとって既知ではないために、**MIME** タイプなどの追加属性によって記述する必要がある場合、この型を記述するメタデータを提供します。

ExtrinsicObject を使用してさまざまな種類のファイルを発行します。多くの場合、これらは **WSDL** ファイルなどの **Web** サービスの成果物です。

[ebXML Registry Profile for Web Services](#) は、**Web** サービスの成果物の発行、管理、統制、検出、再使用に関する **ebXML** レジストリプロファイルを定義する **OASIS** 標準です。デフォルトでは、**Service Registry** にこのプロファイルが実装されています。すなわち、**WSDL** ファイルを **ExtrinsicObject** オブジェクトとしてレジストリに発行する場合、レジストリは文書に対して何らかの標準メタデータを作成し、これによって、文書で定義された **Web** サービスを作成します。この機能は **WSDL** カタログと呼ばれます。

相互にまたはほかのファイル (**XSD** ファイルなど) と依存関係を持つ1つまたは複数の **WSDL** ファイルを発行するには、すべてのファイルを含む **zip** ファイルを作成します。

管理者は **WSDL** カタログ機能を無効化できます。詳細については『**Service Registry 3.1 管理ガイド**』の「**WSDL Cataloger** の無効化」を参照してください。

- 1 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ1-6を実行します。ステップ2で **ExtrinsicObject** またはサブタイプの1つを選択します。たとえば、1つまたは複数の WSDL ファイルを発行する場合は、WSDL を選択します。
- 2 (省略可能) 「MimeType」フィールドに MIME タイプを入力します。<http://www.iana.org/assignments/media-types> に表示されているタイプを入力する必要があります。
スタンドアロン WSDL ファイル (XML を含むテキストファイル) をアップロードする場合、MIME タイプを text/xml に設定します。
複数の WSDL (およびオプションで XSD) ファイルを含む zip ファイルをアップロードする場合、MIME タイプを application/zip に設定します。
- 3 (省略可能) オブジェクトのコンテンツをレジストリで読み取ることができない場合、「不透過」チェックボックスを選択します (暗号化されている場合など)。
- 4 ExtrinsicObject よりも特殊なオブジェクト型を選択する必要がある場合は、「オブジェクト型の **Concept** を選択」ボタンをクリックします。
「Extrinsic Object Classification Node Selector」ウィンドウで ExtrinsicObject 型の適切な Concept が表示されるまでノードを展開します。「了解」をクリックすると、「オブジェクト型」ウィンドウに選択した型が表示されます。
- 5 「リポジトリ項目ファイルを選択」ボタンをクリックして、**ExtrinsicObject** のリポジトリ項目を検索します。
 - a. 「ファイルのアップロード」ウィンドウで、テキストフィールドにファイルパスを入力するか「ブラウズ」をクリックします。
 - b. 「ブラウズ」をクリックした場合、ファイル選択ウィンドウを使用してファイルに移動して、「開く」をクリックします。
 - c. 「ファイルのアップロード」ウィンドウで「ファイルのアップロード」をクリックします。
 - d. 「了解」をクリックします。
「詳細」パネルに以下の追加項目が表示されます。
 - 「コンテンツのバージョン」フィールド (グレー表示)
 - 「コンテンツのバージョンコメント」フィールド (入力可能)
 - 「リポジトリ項目を削除」ボタン
 - 「リポジトリ項目の内容を表示」リンク

- 6 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#)のステップ 8-10 を実行します。

次の手順 WSDL ファイルを参照する ExtrinsicObject オブジェクトを作成後、WSDL 検出クエリーを使用して検索できます。また、基本クエリーを使用して WSDL タイプの ExtrinsicObject オブジェクト、Service オブジェクト、ServiceBinding オブジェクトを検索すると、レジストリで WSDL ファイルの要素によって指定されたすべてのオブジェクトが作成されていることを確認できます。

- service 要素については、Service オブジェクトが作成されます。service 要素の port 下位要素については、ServiceBinding オブジェクトが作成されます。
- portType 要素については、PortType オブジェクト (WSDL ExtrinsicObject のサブタイプ) が作成されます。
- binding 要素については、Binding オブジェクト (WSDL ExtrinsicObject のサブタイプ) が作成されます。

▼ Federation オブジェクトを作成および発行する

Federation はレジストリの関連グループを表します。属性は基本 RegistryObject 属性のみです。Federation オブジェクトを作成するには、管理者であることが必要です。

- 1 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#)のステップ 1-6 を実行します。ステップ 2 で **Federation** を選択します。
- 2 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#)のステップ 8-10 を実行します。
- 3 [67 ページの「オブジェクト間の関係の作成」](#)のステップに従って、関連レジストリを連携に追加します。以下のステップを実行します。
 - a. 連携を検索し、「選択」チェックボックスを選択して、「ブックマーク」をクリックします。
 - b. レジストリを検索し、「選択」チェックボックスを選択して、「関連付け」をクリックします。
 - c. 「関係を作成」領域で、ソースオブジェクトとして連携を選択します。レジストリがターゲットオブジェクトになります。
 - d. **AssociationType** を **HasFederationMember** に設定します。

▼ Organization オブジェクトを作成および発行する

Organization オブジェクトは組織についての情報を提供します。1つの親組織、および1つまたは複数の子組織を持つことができます。主担当者として常に User オブジェクトがあり、組織と1つまたは複数の Service オブジェクト間の関連付けを作成することで、サービスを提供できます。

- 1 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 1-6 を実行します。ステップ 2 で **Organization** を選択します。
- 2 (省略可能) 「住所」フィールドに値を入力します。
- 3 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 8-10 を実行します。

Organization オブジェクトへの合成オブジェクトの追加の詳細については、以下のセクションを参照してください。

- 59 ページの「住所の Organization または User への追加」
 - 60 ページの「Organization または User への電話番号の追加」
 - 60 ページの「電子メールアドレスの Organization または User への追加」
 - 61 ページの「Organization への User の追加」
 - 62 ページの「Organization への子組織の追加」
- 4 Service を Organization に追加するには、67 ページの「オブジェクト間の関係の作成」のステップに従います。以下のステップを実行します。
 - a. 組織を検索し、「選択」チェックボックスを選択して、「ブックマーク」をクリックします。
 - b. サービスを検索し、「選択」チェックボックスを選択して、「関連付け」をクリックします。
 - c. 「関係を作成」領域で、ソースオブジェクトとして組織を選択します。サービスがターゲットオブジェクトになります。
 - d. `AssociationType` を `OffersService` に設定します。

▼ Person または User オブジェクトを作成および発行する

Person または User オブジェクトは、レジストリ内の個人および登録ユーザーについての情報を提供します。どちらのオブジェクトも同じ属性を持ちます。User オブジェクトは主担当者として Organization オブジェクトと関連します。User オブ

ジェクトは、`AuditableEvent` を生成する要求を送信した要求者を識別するために、`AuditableEvent` オブジェクトでも使用されます。

`User` オブジェクトは、ユーザー登録ウィザードを使用して作成することを推奨します。レジストリに自分自身でアクセスしない個人のメタデータを作成するたびに、Web コンソールを使用して `Person` オブジェクトを作成します。

1 人の個人に対して複数の住所、電子メールアドレス、電話番号を作成できるようにするには、`User` オブジェクトを作成します。Web コンソールでは、住所、電子メールアドレス、電話番号を、`Person` オブジェクトではなく、`User` オブジェクトの合成オブジェクトとして追加できます。

- 1 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#) のステップ 1-6 を実行します。ステップ 2 で **Person** または **User** を選択します。
- 2 「個人の名前」フィールドに値を入力します。
これらのうち少なくとも 1 つのフィールドに値を指定します。
「名前」フィールドは使用しないでください。Web コンソールは `Person` または `User` の「名前」フィールドに入力した値はすべて無視します。
- 3 以下のセクションに記述されている合成オブジェクトを追加します。
 - [59 ページの「住所の Organization または User への追加」](#)
 - [60 ページの「Organization または User への電話番号の追加」](#)
 - [60 ページの「電子メールアドレスの Organization または User への追加」](#)
- 4 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#) のステップ 8-10 を実行します。

▼ Registry オブジェクトを作成および発行する

Registry オブジェクトはレジストリを表します。属性は基本 `RegistryObject` 属性のみです。Registry オブジェクトを作成するには、管理者であることが必要です。

- 1 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#) のステップ 1-6 を実行します。ステップ 2 で **Registry** を選択します。
- 2 [47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」](#) のステップ 8-10 を実行します。

次の手順 [レジストリを連携に追加する方法](#)については、[52 ページの「Federation オブジェクトを作成および発行する」](#)を参照してください。

▼ RegistryPackage オブジェクトを作成および発行する

RegistryPackage オブジェクトは、任意の数のレジストリオブジェクトの論理グループ化を表します。

- 1 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 1-6 を実行します。ステップ 2 で **RegistryPackage** を選択します。
- 2 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 8-10 を実行します。
- 3 オブジェクトをパッケージに追加するには、65 ページの「レジストリパッケージへのオブジェクトの追加」の手順に従います。

▼ Service オブジェクトを作成および発行する

Service オブジェクトはサービスに関する情報を提供します。サービスへのアクセス方法に関する技術情報を表す、1 つまたは複数の ServiceBinding オブジェクトを含めることができます。

Service オブジェクトを発行する最も一般的な方法は、コンテンツが 1 つまたは複数の WSDL ファイルで構成される ExtrinsicObject オブジェクトを発行することです。詳細については 50 ページの「ExtrinsicObject オブジェクトを作成および発行する」を参照してください。

- 1 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 1-6 を実行します。ステップ 2 で **Service** を選択します。
- 2 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」のステップ 8-10 を実行します。
- 3 ServiceBinding オブジェクトをサービスに追加するには、62 ページの「Service へのサービスバインディングの追加」の手順に従います。
- 4 SpecificationLink オブジェクトを ServiceBinding に追加するには、63 ページの「サービスバインディングへの仕様リンクの追加」の手順に従います。

オブジェクトへの分類の追加

分類を作成するには、内部 *Classification Scheme* を使用します。内部 *Classification Scheme* には、レジストリにとって既知の値を持つ *Concept* のセットが含まれます。

▼ 分類を追加する

分類をオブジェクトに追加するには、適切な *Classification Scheme* を検索し、その *Classification Scheme* 内の *Concept* を選択します。

- 1 オブジェクトの「詳細」領域で「**Classification**」ボタンをクリックします。
「*Classification*」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 分類の名前と、必要に応じて説明を入力します。
- 4 「**Classification Scheme** または **Concept** を選択」ボタンをクリックします。
「*ClassificationScheme* または *Node* の選択」ウィンドウが開きます。
- 5 **ClassificationSchemes** ノードを展開し、**Concept** ノードを展開して、使用する葉ノードを選択します。
- 6 「了解」をクリックして、「**ClassificationScheme** または **Node** の選択」ウィンドウを閉じます。
選択した *Classification Scheme*、*Concept*、および値が詳細パネルウィンドウに表示されます。
- 7 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 8 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

オブジェクトへの外部識別子の追加

外部識別子を作成するには、外部 *Classification Scheme* を使用します。外部 *Classification Scheme* には *Concept* が存在しないため、その値はレジストリにとって既知ではありません。

▼ 外部識別子を追加する

外部識別子をオブジェクトに追加するには、適切な Classification Scheme を検索し、値を指定します。

- 1 オブジェクトの「詳細」領域で、「外部識別子」タブをクリックします。
「外部識別子」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 外部識別子の名前と、必要に応じて説明を入力します。
- 4 「ClassificationScheme を選択」ボタンをクリックします。
ClassificationScheme/Concept の選択ウィンドウが開きます。
- 5 ClassificationSchemes ノードを展開し、Concept が存在しない Classification Scheme を選択します。
- 6 「了解」をクリックして、ClassificationScheme/Concept の選択ウィンドウを閉じます。
選択した Classification Scheme が詳細パネルウィンドウに表示されます。
- 7 「値」フィールドに値を入力します。
- 8 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 9 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

オブジェクトへの外部リンクの追加

外部リンクは、URI をレジストリオブジェクトに関連付けるために使用されます。

▼ 外部リンクを追加する

- 1 オブジェクトの「詳細」領域で、「外部リンク」タブをクリックします。
「外部リンク」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。

- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 外部リンクの名前を入力します。
- 4 「外部URI」フィールドに外部リンクのURLを入力します。
- 5 (省略可能)URLが指し示すコンテンツのタイプを指定する場合は、「オブジェクト型のConceptを選択」ボタンをクリックします。
ClassificationSchemesノードを展開し、ObjectTypeノード、RegistryObjectノード、およびExtrinsicObjectノードを展開して、コンテンツタイプを選択します。Conceptを選択し、「了解」をクリックします。適切なタイプが見つからない場合は、「取消し」をクリックします。必要な場合は、ExtrinsicObjectの新しいConceptを作成できます。
- 6 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 7 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

スロットによるオブジェクトへのカスタム情報の追加

スロットには、ほかの手段ではレジストリに保存されない追加情報が格納されます。スロットは、オブジェクトに任意の属性を追加する手段になります。

▼ スロットを追加する

- 1 オブジェクトの「詳細」領域で、「スロット」タブをクリックします。
「スロット」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 スロットの名前を入力します。
名前は通常、人間が読みやすいURNです。
- 4 (省略可能)「スロットタイプ」フィールドに値を入力します。このフィールドを使用して、スロットのデータ型を指定したり、複数のスロットをグループ化したりできます。
型は通常、DataType Classification SchemeのConceptの一意なID値です。

- 5 「値」フィールドに値を入力します。
- 6 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 7 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

住所の Organization または User への追加

Organization または User オブジェクトは、1つまたは複数の住所を持つことができます。

▼ 住所を追加する

- 1 Organization または User の「詳細」領域で、「住所」タブをクリックします。「住所」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
- 2 「追加」をクリックします。詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 フィールドに値を入力します。これらのフィールドはすべて省略可能です。
 - 「番地」
 - 「町」
 - 「市」
 - 「州または都道府県」
 - 「国」
 - 「郵便番号」
- 4 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 5 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

OrganizationまたはUserへの電話番号の追加

OrganizationまたはUserは、1つまたは複数の電話番号を持つことができます。

▼ 電話番号を追加する

- 1 OrganizationまたはUserの「詳細」領域で、「電話番号」タブをクリックします。「電話番号」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
- 2 「追加」をクリックします。詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 「タイプ」コンボボックスから値を選択します。次の値から選択できます。
 - 「ポケットベル」
 - 「FAX」
 - 「自宅電話」
 - 「携帯電話」
 - 「会社電話」
- 4 フィールドに値を入力します。これらのフィールドはすべて省略可能です。
 - 「国番号」
 - 「市外局番」
 - 「電話番号」
 - 「内線」
- 5 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 6 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

電子メールアドレスのOrganizationまたはUserへの追加

OrganizationまたはUserは、1つまたは複数の電子メールアドレスを持つことができます。

▼ 電子メールアドレスを追加する

- 1 Organization または User の「詳細」領域で、「電子メールアドレス」タブをクリックします。
「電子メールアドレス」表が表示されます。ただし、空の場合もあります。
- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 「タイプ」コンボボックスから値を選択します。「自宅電子メール」または「会社電子メール」のいずれかです。
- 4 「電子メールアドレス」フィールドに値を入力します。
- 5 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 6 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Organization への User の追加

Organization オブジェクトは1つまたは複数のユーザーを持つことができます。ユーザーの1人は主担当者になります。通常、主担当者はその Organization を作成したユーザーです。ユーザーをさらに作成して追加することもできます。

▼ User を追加する

- 1 Organization の「詳細」領域で、「ユーザー」タブをクリックします。
「ユーザー」表が表示されます。
- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 (省略可能) 「説明」フィールドにユーザーの説明を入力します。
- 4 「名」、「ミドルネーム」、および「姓」フィールドに、ユーザーの名、ミドルネーム、および姓を入力します。これらのうち少なくとも1つのフィールドに値を指定します。
「名前」フィールドではなくこれらのフィールドを使用します。Web コンソールは Person または User の「名前」フィールドに入力した値はすべて無視します。

- 5 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 6 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Organization への子組織の追加

Organization は、1つまたは複数の子組織を持つことができます。Organization に子組織を追加するには、次の手順を実行します。

▼ 子組織を追加する

- 1 Organization の「詳細」領域で、「組織」タブをクリックします。
「Organization」表が表示されます。
- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 「名前」フィールドに新しい組織の名前を入力します。
- 4 (省略可能)「説明」フィールドに説明を入力します。
- 5 (省略可能)住所フィールドに値を入力します。
- 6 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 7 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

Service へのサービスバインディングの追加

Service は、通常、1つまたは複数のサービスバインディングを持っています。

▼ サービスバインディングを追加する

- 1 Service の「詳細」領域で、「サービスバインディング」タブをクリックします。
「サービスバインディング」表が表示されます。

- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 「名前」フィールドにサービスバインディングの名前を入力します。
- 4 (省略可能)「説明」フィールドにサービスバインディングの説明を入力します。
- 5 「アクセス URL」フィールドにサービスバインディングの URL を入力します。
- 6 (省略可能)「ターゲットバインディング」フィールドに、この **ServiceBinding** が参照する別の **ServiceBinding** オブジェクトの一意の識別子を入力します。
- 7 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 8 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

サービスバインディングへの仕様リンクの追加

ServiceBinding は、通常、1つの **SpecificationLink** オブジェクトを持っています。

▼ 仕様リンクを追加する

- 1 **ServiceBinding** の「詳細」領域で、「仕様リンク」タブをクリックします。
「仕様リンク」表が表示されます。
- 2 「追加」をクリックします。
詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 「名前」フィールドに **SpecificationLink** の名前を入力します。
- 4 (省略可能)「説明」フィールドに **SpecificationLink** の説明を入力します。
- 5 (省略可能)**SpecificationLink** に使用法パラメータがある場合は、「使用法の説明」フィールドにそのパラメータの使用法の説明を入力します。
- 6 (省略可能)**SpecificationLink** に使用法パラメータがある場合は、「使用法パラメータ」フィールドに使用法パラメータを入力します。

- 7 「仕様オブジェクト」フィールドに、親 ServiceBinding の技術仕様を表す ExtrinsicObject または ExternalLink オブジェクトの一意的識別子を入力します (WSDL 文書など)。
- 8 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 9 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

子 Concept の Classification Scheme または Concept への追加

ClassificationScheme は、通常、多数の子 Concept を持っています。また、それらの子 Concept も子 Concept を持つことができます。

▼ 子 Concept を追加する

- 1 ClassificationScheme の「詳細」領域で、「ChildConcepts」タブをクリックします。「Concept」表が表示されます。
- 2 「追加」をクリックします。詳細パネルウィンドウが開きます。
- 3 「名前」フィールドに Concept の名前を入力します。
- 4 (省略可能) 「説明」フィールドに Concept の説明を入力します。
- 5 「値」フィールドに Concept の値を入力します。
- 6 「保存」をクリックして新規オブジェクトを保存し、詳細パネルウィンドウを閉じます。
- 7 オブジェクトの「詳細」領域で、「適用」をクリックします。

レジストリパッケージへのオブジェクトの追加

RegistryPackage は、ほかのレジストリオブジェクトを包含するオブジェクトです。通常、RegistryPackage は論理的に関連するオブジェクトをグループ化するために使用します。グループ化するオブジェクトの種類や所有者は異なってもかまいません。

RegistryPackage にオブジェクトを追加するには、各オブジェクトの一意の識別子を指定します。一意の識別子を入力すると間違いやすいため、次の手順では、識別子のコピーとペーストによってオブジェクトを追加する方法について説明します。

▼ レジストリパッケージにオブジェクトを追加する

- 1 47 ページの「新しいレジストリオブジェクトを作成して発行する」で説明した手順に従って、RegistryPackage オブジェクトを作成します。名前と、必要に応じて説明を入力します。ただし、この時点ではオブジェクトを RegistryPackage に追加しないでください。
- 2 「適用」をクリックして RegistryPackage を保存したら、38 ページの「ブックマーク機能を使用する」で説明した手順に従って、RegistryPackage をブックマークします。
- 3 Web コンソールを使用して、RegistryPackage に追加するオブジェクトを検索します。検索したオブジェクトをそれぞれブックマークします。
- 4 RegistryPackage に追加するオブジェクトの「詳細」リンクをクリックします。
- 5 オブジェクトの詳細パネルで、キーボード (**Control-C** または **Copy** キー) を使用して、一意の識別子をコピーします。
- 6 「検索結果」領域で、RegistryPackage の「詳細」リンクをクリックします。
- 7 オブジェクトの「詳細」領域で、「メンバー」タブをクリックします。
- 8 「パッケージに追加」をクリックします。
- 9 「一意の識別子」フィールドで、キーボード (**Control-V** または **Paste** キー) を使用して、コピーした一意の識別子をペーストします。
- 10 「追加」をクリックします。
追加したオブジェクトが「レジストリオブジェクト」領域に表示されます。
- 11 「詳細」領域で「適用」をクリックして RegistryPackage を保存します。

- 手順4から11までを繰り返して、RegistryPackageに各オブジェクトを追加します。

オブジェクトの状態の変更

オブジェクトの所有者である場合、または該当する操作を実行する権限がある場合は、オブジェクトの発行、編集、および削除に加えて、次の操作を実行できます。

- 承認
- 非推奨
- 非推奨解除

これらの機能は、本稼働環境でレジストリオブジェクトのバージョン管理ポリシーを確立するのに役立ちます。たとえば、オブジェクトのあるバージョンを一般的な用途のために承認し、古いバージョンは削除する前に非推奨にします。オブジェクトを非推奨にしたあとで考えが変わった場合は、そのオブジェクトの非推奨を解除できます。

作成したオブジェクトのデフォルトの状態が送信されます。

これらの操作はすべて「検索結果」領域またはオブジェクトの「詳細」領域で実行します。

- オブジェクトを承認するには、そのオブジェクトを選択して「承認」ボタンをクリックします。承認の確認メッセージが表示され、監査証跡にイベントが追加されます。

オブジェクトを承認するには、「状態の設定または変更」コンボボックスから「承認」を選択して「状態の設定または変更」ボタンをクリックする方法もあります。

- オブジェクトを非推奨にするには、そのオブジェクトを選択して「非推奨」ボタンをクリックします。非推奨の確認メッセージが表示されます。監査証跡にイベントが追加されます。

オブジェクトを非推奨にするには、「状態の設定または変更」コンボボックスから「非推奨」を選択して「状態の設定または変更」ボタンをクリックする方法もあります。

- オブジェクトの非推奨を解除するには、そのオブジェクトを選択して「非推奨解除」ボタンをクリックします。非推奨解除の確認メッセージが表示され、監査証跡にイベントが追加されます。

オブジェクトの非推奨を解除するには、「状態の設定または変更」コンボボックスから「送付」を選択して「状態の設定または変更」ボタンをクリックする方法もあります。これにより、オブジェクトがデフォルトの状態の「送付」に戻ります。

注 - `ExtrinsicObject` オブジェクトのリポジトリ項目を削除すると、自動的に撤回状態が設定されます。このステータスは手動では設定しないでください。

オブジェクトの削除

所有するオブジェクトをレジストリから削除するには、「検索結果」領域のオブジェクトを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

注 - ユーザー登録実行時にユーザーのために作成された `User` オブジェクトは削除しないでください。このオブジェクトを削除すると、そのユーザーとして発行したオブジェクトに関するすべての操作を実行できなくなり、追加オブジェクトを発行するために再度ユーザー登録を行わなければなりません。

所有するオブジェクトの `AuditableEvent` オブジェクトは削除しないでください。`AuditableEvent` オブジェクトを削除すると、`AuditableEvent` オブジェクトが属するオブジェクトの監査証跡が壊れます。(FindAllMyObjects 検索を行う場合、所有するオブジェクトの `AuditableEvent` オブジェクトは「検索結果」領域に表示されませんが、`AuditableEvent` オブジェクトに対して基本クエリーを実行する場合は表示されます。)

オブジェクトが付帯オブジェクトである場合は、次の2つの方法があります。

- `ExtrinsicObject` レジストリオブジェクトとそのオブジェクトが参照するリポジトリ項目の両方を削除するには、「削除オプション」コンボボックスから「オブジェクトとリポジトリ項目を削除」(デフォルト)を選択します。
- リポジトリ項目を削除し、レジストリ内の `ExtrinsicObject` を残すには、「リポジトリ項目だけを削除」を選択します。その後、別のリポジトリ項目を追加できます。

「削除オプション」コンボボックスは、付帯オブジェクトの場合にのみ意味があります。

オブジェクト間の関係の作成

オブジェクト間の関係には、参照と関連の2種類があります。どちらも単方向の関係です。つまり、それぞれの関係にソースオブジェクトとターゲットオブジェクトがあります。

レジストリは、特定の型のオブジェクト間で `ObjectRefs` と呼ばれる参照をサポートします。たとえば、`Service` と `ServiceBinding` を作成する場合は、`Service` から

ServiceBinding への ServiceBinding 参照を作成できます。しかし、ServiceBinding から Service への参照は作成できません。参照はレジストリオブジェクトではありません。

Association はレジストリオブジェクトであり、任意のレジストリオブジェクト間の Association を作成できます。レジストリは、OffersService、RelatedTo、HasMember などのさまざまな定義済み Association タイプを含む AssociationType Classification Scheme をサポートします。新しい Association タイプを作成することもできます。所有するレジストリオブジェクト間の Association は、区域内の関連と呼ばれます。一方または両方のオブジェクトを所有していない Association は、区域外の関連と呼ばれます。Organization を作成し、それに Service を追加した場合は、Organization から Service に対して OffersService というタイプの Association が自動的に作成されます。

ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトに有効な参照が存在しない場合は、参照を作成できません。

2つのオブジェクトを関連付けるには、「レジストリオブジェクト」領域の「関連付け」ボタンを使用します。このボタンは、検索結果の表で2つのオブジェクトを選択するとアクティブになります。

2つのオブジェクトを検索結果の表に同時に表示できない場合は、「選択」チェックボックスを選択して一方のオブジェクトをブックマークしてから、それに関連付けるオブジェクトを検索します。詳細については、[38 ページの「ブックマーク機能を使用する」](#)を参照してください。

▼ Reference を作成する

- 1 「レジストリオブジェクト」領域で、2つのオブジェクトを選択し、「関連付け」をクリックします。
- 2 「関係を作成」領域で、ソースオブジェクトがまだ選択されていない場合は、選択します。

もう一方のオブジェクトがターゲットオブジェクトになります。

ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトに有効な参照が存在する場合は、デフォルトで「参照」オプションが選択され、有効な参照属性が表示されます。ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトに有効な参照が存在しない場合は、「参照」ラジオボタンがグレー表示されます。

- 3 「保存」をクリックして参照を保存します。

▼ Association を作成する

- 1 「レジストリオブジェクト」領域で、2つのオブジェクトを選択し、「関連付け」をクリックします。
- 2 「関係を作成」領域で、ソースオブジェクトがまだ選択されていない場合は、選択します。
もう一方のオブジェクトがターゲットオブジェクトになります。
- 3 「Association」ラジオボタンがまだ選択されていない場合は、選択します。
- 4 「詳細」領域で、Associationの名前と、必要に応じて説明を入力します。
ソースオブジェクトとターゲットオブジェクトのID値はすでに入力されています。
- 5 「Association タイプ」コンボボックスからタイプの値を選択します。
- 6 「適用」をクリックして Association を保存します。

障害追跡

この章では、Web コンソールの使用時に発生する可能性がある問題の解決方法について説明します。

- 71 ページの「Service Registry にアクセスできない」
- 72 ページの「優先ロケールが使用されない」
- 72 ページの「検索パネルのラベルが現在のロケールで表示されない」
- 72 ページの「ExternalLink や ServiceBinding を作成できない」
- 72 ページの「Web コンソールのエラーメッセージが消えない」
- 73 ページの「新しいレジストリオブジェクトを保存できない」
- 73 ページの「Web コンソールが応答しない」
- 73 ページの「クライアント証明書選択間違いによるログインエラー」
- 74 ページの「WSDL ファイル発行時のコンテンツ不足エラー」

障害追跡に関するその他の問題の詳細については、『Service Registry 3.1 リリースノート (UNIX 版)』の「既知の問題点とバグ」を参照してください。

Service Registry にアクセスできない

Web コンソールを使用しようとして、エラー 404 または「接続が拒否されました」というメッセージが表示された場合は、レジストリが実行されていないか、または不正な URL を指定した可能性があります。

指定した URL が `http://hostname:6480/soar/` となっているかどうかを確認します。場合によっては、次のようにホスト名に加えてドメインも指定する必要があります。 `hostname.domain`

レジストリが実行されていることを確認するには、レジストリの Application Server ドメインに対してコマンド行または Web インタフェースを使用します。詳細については、『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「Service Registry 用 Application Server ドメインの管理」を参照してください。

優先ロケールが使用されない

Web コンソールで優先ロケールが使用されない場合は、Web ブラウザの環境設定で、優先ロケールがロケールのリストの先頭に表示されているかどうかを確認します。詳細については、[16 ページの「デフォルト言語の変更」](#)を参照してください。

検索パネルのラベルが現在のロケールで表示されない

ロケールを変更して「ロケールをリセット」をクリックしたあと、検索パネルのラベルが現在のロケールで表示されない場合は、「セッションを終了」をクリックし、「レジストリへ戻る」をクリックします。ロケールの変更については、[16 ページの「デフォルト言語の変更」](#)を参照してください。

ExternalLink や ServiceBinding を作成できない

次のような状況でエラーが表示されることがあります。

- ExternalLink オブジェクトのExternalURI を指定したとき
- ServiceBinding オブジェクトの AccessURI を指定したとき

このエラーメッセージは、次のようなものです。

URL: *uri* は解決できません。

絶対パス形式 [scheme:][//authority][path][?query][#fragment] を使用してください。

このエラーは、『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリドメイン用の Java 仮想マシン (JVM) の設定」で説明されている管理タスクがまだ実行されていないことを意味しています。これらのオブジェクトを作成するには、サイトの Service Registry 管理者がこの作業を実行し、レジストリを再起動する必要があります。

Web コンソールのエラーメッセージが消えない

Web コンソールのエラーメッセージの原因と思われる問題を解決するには、レジストリの Application Server ドメインのサーバーログを調べます。詳細については、『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「Service Registry 用 Application Server ドメインの管理」を参照してください。

新しいレジストリオブジェクトを保存できない

新しいオブジェクトをレジストリに保存しようとしたときにエラーメッセージが表示された場合は、次のいずれかを実行します。

- レジストリによって生成された証明書を使用している場合は、その証明書がブラウザにインポートされているかどうかを確認します。
- サードパーティー証明書を使用している場合は、管理者が証明書発行局のルート証明書をレジストリの Application Server ドメインの truststore に配置したかどうかを確認します。詳細については、『Service Registry 3.1 管理ガイド』の「レジストリ用ドメイン内の信頼できる証明書にルート証明書を追加する」を参照してください。

Web コンソールが応答しない

Web コンソールが応答しない場合は、次の手順を実行します。

1. 表示されたエラーメッセージを書き留めます。
2. ブラウザのセッションCookie を消去します。Cookie を消去するには、レジストリが実行されているサイトで JSESSIONID という名前の Cookie を探し、それを削除します。不明な場合は、すべての Cookie を削除します。
3. 15 ページの「[Web コンソールの起動](#)」で説明した手順に従って、Web コンソールを再起動します。
4. レジストリサポートに連絡し、エラーメッセージとエラーが発生したときの操作を伝えます。

クライアント証明書選択間違いによるログインエラー

Web ブラウザにクライアント証明書が複数ロードされている場合、Service Registry へのログイン時に間違った証明書を選択すると、ログインに失敗します。この問題を修正するには、Web ブラウザの指示に従ってセキュリティーセッションを消去します。

サポートされている Firefox バージョンについて、以下のステップを実行します。

1. 「ツール」 → 「オプション」 → 「詳細設定」 → 「証明書」の順に選択します。
2. 「証明書」ダイアログの「クライアント証明書選択」で、「毎回自分で選択する」を選択します。
3. 「証明書」ダイアログで「セキュリティーデバイス」もクリックします。
4. 「デバイスマネージャー」ダイアログで「Software Security Device」を選択して「ログアウト」をクリックします。

5. 「デバイスマネージャー」ダイアログで「了解」をクリックします。
6. 「オプション」ダイアログで「了解」をクリックします。

Mozilla および旧バージョンの Firefox で、以下のステップを実行します。

1. 「編集」→「設定」→「プライバシー」→「セキュリティー」→「証明書」の順に選択します。
2. 「証明書」ダイアログの「クライアント証明書選択」で、「毎回自分で選択する」を選択します。
3. 「セキュリティーデバイス」をクリックします。
4. 「デバイスマネージャー」ダイアログで「Software Security Device」を選択して「ログアウト」をクリックします。
5. 「デバイスマネージャー」ダイアログで「了解」をクリックします。
6. 「設定」ダイアログで「了解」をクリックします。

Internet Explorer で問題が発生した場合は、Internet Explorer のマニュアルを参照してください。

WSDL ファイル発行時のコンテンツ不足エラー

WSDL ファイル発行時に、以下のエラーメッセージが表示されることがあります。

The following required content is missing from the submission: <filename>. Add this file to your zip file, and resubmit the request.

このエラーは、WSDL ファイルが依存するファイルをレジストリが見つけれられないことを示しています。WSDL ファイルが依存するすべてのファイル (WSDL ファイル、XSD ファイルなど) を含む zip ファイルを送信する必要があります。詳細については、50 ページの「[ExtrinsicObject オブジェクトを作成および発行する](#)」を参照してください。

索引

数字・記号

_ (下線), 検索に使用するワイルドカード, 29

A

AdhocQuery オブジェクト, 発行, 48

C

Classification Scheme, 30-32

子 Concept の追加, 64

詳細の表示, 41

発行, 49

classification schemes, 探索, 43

ClassificationNode オブジェクト, 発行, 48-49

Concept, Classification Scheme への追加, 64

E

Error 404 メッセージ, 71

extrinsic オブジェクト, 発行, 50-52

F

Federation オブジェクト, 発行, 52

O

Organization

子組織の追加, 62

住所の追加, 59

電子メールアドレスの追加, 60-61

電話番号の追加, 60

ユーザーの追加, 61-62

P

Person オブジェクト, 発行, 53-54

S

Service, サービスバインディングの追加, 62-63

U

URL 解決不可メッセージ, 72

User

住所の追加, 59

電子メールアドレスの追加, 60-61

電話番号の追加, 60

userData フォルダ, 探索, 43

users, 発行, 53-54

W

Web コンソール, 起動, 15-16

WSDL クエリー, 実行, 33-37

え

エラーメッセージ, 障害追跡, 72

お

オブジェクト型, 検索, 27-29

か

外部識別子, レジストリオブジェクトへの追加, 56-57

外部リンク

障害追跡, 72

詳細の表示, 42

発行, 49-50

レジストリオブジェクトへの追加, 57-58

監査証跡, 表示, 39-42

関連

作成, 67-69

詳細の表示, 41

く

クエリー

WSDL, 33-37

定義済み, 26-27

け

言語, デフォルトの変更, 16-17

「検索」タブ, 25-26

こ

子組織, Organization への追加, 62

さ

サービス, 発行, 55

サービスバインディング

Service への追加, 62-63

障害追跡, 72

仕様リンクの追加, 63-64

「削除オプション」コンボボックス, 67
参照, 作成, 67-69

し

住所, Organization または User への追加, 59

障害追跡, 71-74

「詳細」領域, 39-42

証明書, 取得, 18-24

仕様リンク, サービスバインディングへの追加, 63-64

す

スロット, レジストリオブジェクトへの追加, 58-59

せ

接続拒否メッセージ, 71

そ

組織, 発行, 53

た

「探索」タブ, 使用, 42-43

て

定義済みクエリー, 26-27

- 電子メールアドレス, Organization または User への追加, 60-61
電話番号, Organization または User への追加, 60
- は
バージョン管理, 有効化, 18
%(パーセント記号), 検索に使用するワイルドカード, 29
- ふ
付帯オブジェクト, 詳細の表示, 42
ブックマーク機能, 使用, 38
分類
 検索, 30-32
 レジストリオブジェクトへの追加, 56
- ゆ
ユーザー, Organization への追加, 61-62
ユーザーアカウント, 作成, 18-24
ユーザー登録ウィザード, 19
- よ
用語集, リンク, 10
- れ
レジストリ, 発行, 54
レジストリオブジェクト
 エラーの発行, 73
 オブジェクト型による検索, 27-29
 外部識別子の追加, 56-57
 外部リンクの追加, 57-58
 カスタム情報の追加, 58-59
 関係の作成, 67-69
 関連の作成, 67-69
 検索結果の表示, 37-38
- レジストリオブジェクト (続き)
 削除, 67
 作成, 45-55
 詳細の表示, 39-42
 状態による検索, 30
 承認, 非推奨, または非推奨解除, 66-67
 スロットの追加, 58-59
 名前および説明による検索, 29
 発行, 45-55
 分類による検索, 30-32
 分類の追加, 56
 レジストリパッケージへの追加, 65-66
レジストリオブジェクトの削除, 67
レジストリオブジェクトの作成, 45-55
レジストリオブジェクトの状態, 検索基準, 30
レジストリオブジェクトの承認, 66-67
レジストリオブジェクトの説明, 検索, 29
レジストリオブジェクトの名前, 検索, 29
レジストリオブジェクトの発行, 45-55
レジストリオブジェクトの非推奨, 66-67
レジストリオブジェクトの非推奨解除, 66-67
「レジストリオブジェクト」領域, 37-38
レジストリオブジェクト領域, オブジェクト固定, 38
レジストリパッケージ
 発行, 55
 レジストリオブジェクトの追加, 65-66
- ろ
ロケール
 障害追跡, 72
 設定, 16-17
- わ
ワイルドカード, 検索に使用, 29

